

ARIUS

YDP-181

取扱説明書

組み立て説明については巻末をご参照ください。

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するため、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

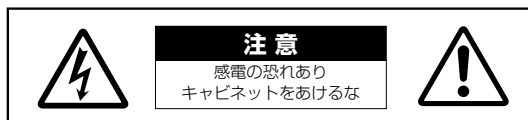


注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。

他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

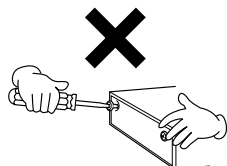
感電やショートのおそれがあります。



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気が多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりません。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

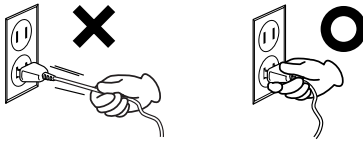
禁止



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などはさまないように注意する。

禁止

お客様がけがをするおそれがあります。



キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

禁止

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。



本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

禁止

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをした原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

禁止

聴覚障害の原因になります。



イス



不安定な場所に置かない。

禁止

イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。



イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

禁止

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



イスには二人以上ですわらない。

禁止

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



(高低自在イスの場合) イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

禁止

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをした原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたみを保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

● データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

● 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障や損傷、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話などの電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ/用コンパウンドを楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ データの保存に関する注意

- 保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USB記憶装置/コンピューターなどの外部機器に保存してください。
- 保存したUSB記憶装置/外部メディアの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB記憶装置/外部メディアにバックアップとして保存されることをおすすめします。

このたびは、ヤマハ電子ピアノを
お買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
この楽器の優れた機能を十分に生かして
演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに
大切に保管してください。

取扱説明書について

■ 取扱説明書 (冊子マニュアル)

取扱説明書(本書)は、「準備編」、「本編」、「付録」の3部構成になっています。

準備編

最初にお読みください。

10ページの「各部の名前と機能」では、パネル図から本体の使い方と、その説明ページを見つけることができます。

本編

この楽器の機能の使い方と操作を詳しく説明しています。

実際に楽器の操作をしながらご覧ください。

付録

音色一覧などの資料を掲載しています。

表記上の決まり

[]... パネル上にあるボタン類を示します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で[MASTER VOLUME]
スライダーと表記します。

■ 電子マニュアル

ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「YDP-181」)を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>



データリスト

「MIDIデータフォーマット」や「MIDIインプリメンテーションチャート」などMIDIに関する資料が掲載されています。



MIDI入門

MIDIについての詳細や使い方を説明しています。

お願いとお知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

特長

「ピュアCF音源」搭載

ピュアCF音源は、ヤマハ最高峰のフルコンサートグランドピアノ「CFIIIIS」から最高の1台を選び、最新の技術でサンプリングしたピアノ音色です。原音に忠実で弾き応えのある、豊かで自然なピアノ音色に仕上がっています。

自然なタッチを実現した鍵盤機構「グレードハンマー鍵盤」

グランドピアノの弾き心地を探求して開発されたグレードハンマー鍵盤は、低音部と高音部とでは微妙に重さの違うグランドピアノの鍵盤タッチを再現しました。その本格的な質感は、低音域から高音域まで自然なバランスで演奏する人の心をとらえます。

付属品(お確かめください)

- 保証書
 - 取扱説明書(本書)
 - ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
 - ヘッドフォン
 - イス
 - 電源コード
 - ヤマハオンラインメンバー製品ユーザー登録のご案内
- *ユーザー登録の際に記載されているプロダクトID (PRODUCT ID)が必要です。

調律について

この楽器は調律は必要ありません。

お引越しの際は

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

目次

準備編 2

安全上のご注意.....	2
注記(ご使用上の注意).....	5
取扱説明書について.....	6
特長.....	7
付属品(お確かめください).....	7

各部の名前と機能..... 10

ご使用前の準備..... 12

キーカバーについて.....	12
譜面立てについて.....	12
電源を入れる.....	13
音量(ボリューム)を調節する.....	14
ヘッドフォンを使う.....	14
スピーカーのオン/オフを切り替える.....	14

本編 15

デモ曲を聞く..... 15

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く..... 16

ピアノ50曲を片手で練習する.....	17
ピアノ50曲のフレーズを指定して練習する.....	18

音色を楽しむ..... 19

音色を選ぶ.....	19
ペダルを使う.....	20
音に変化を付ける[BRIILLIANCE]/[REVERB]/[EFFECT]/[DAMPER RES.].....	21
タッチ感度を設定する[TOUCH].....	23
キー(調)を変える[TRANSCOPE].....	24
2つの音色を重ねる(デュアル).....	25
メトロノームを使う(METRONOME).....	26

演奏を録音(記録)する..... 27

演奏を簡単に録音する.....	27
録音した演奏を聞いてみる.....	29
録音し直す.....	29
RIGHT/LEFTパートに録音する.....	30
録音した演奏を削除する.....	31
初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する.....	32

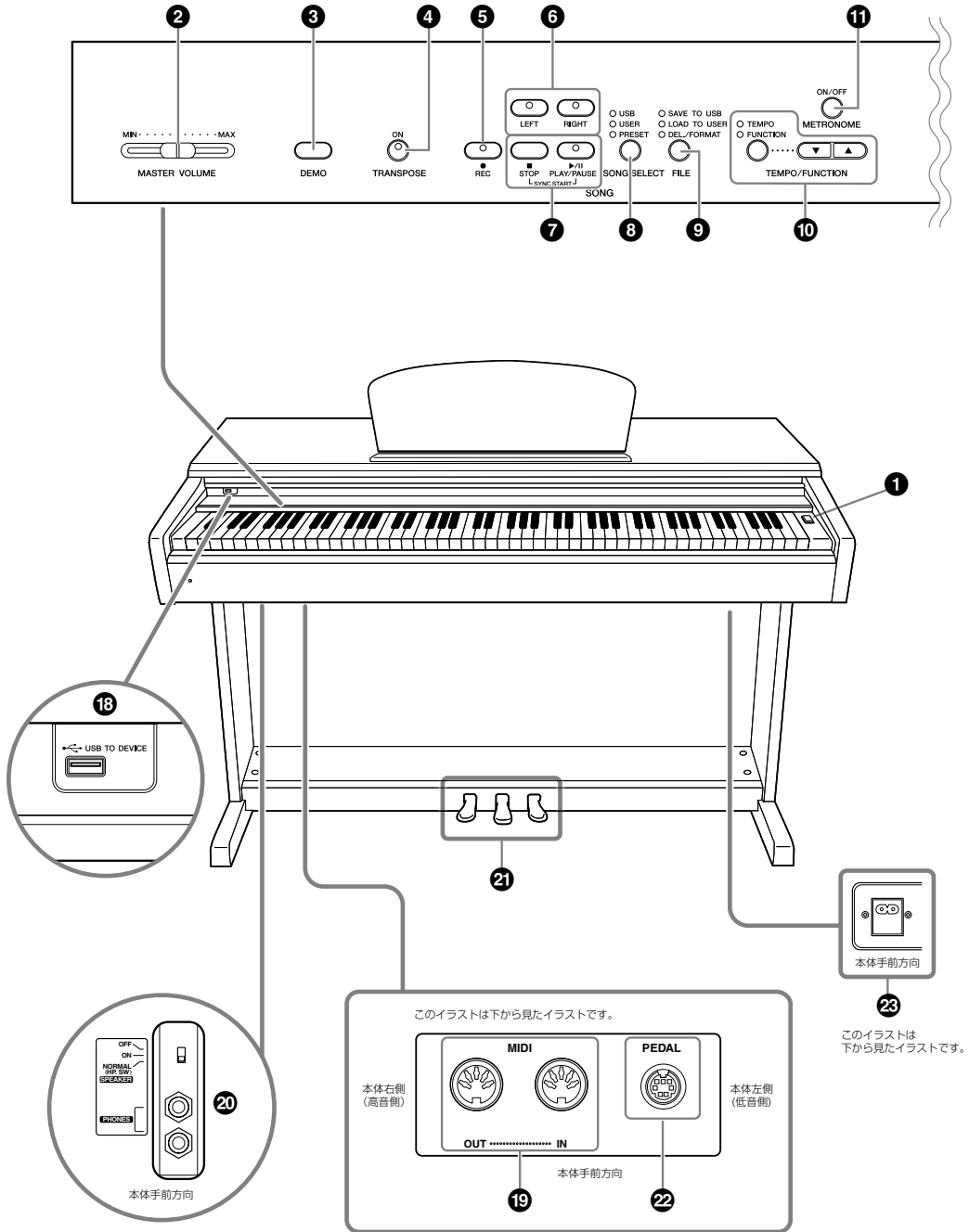
曲をUSB記憶装置に保存するなどのファイル操作をする..... 33

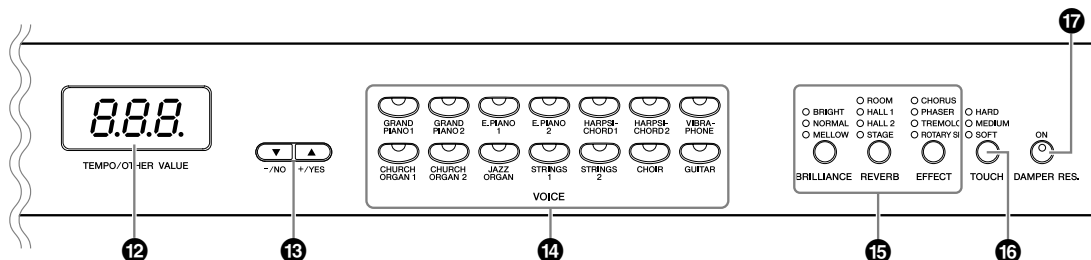
保存と読み込みについて.....	33
録音した曲を1曲ずつUSB記憶装置に保存する.....	34
USB記憶装置に保存した曲を楽器に読み込む.....	35
USB記憶装置に入っている曲を削除する.....	36
USB記憶装置をフォーマットする.....	37
USB機器の取り扱いについて.....	38

曲を再生する.....	40
ユーザーソングや楽器に取り込んだ外部ソングを再生する.....	41
USB記憶装置に保存されている曲を再生する.....	42
再生に関する便利な機能.....	42
各種の便利な設定をする [FUNCTION]	43
ファンクションでの基本操作.....	44
各ファンクション項目の説明.....	45
他の機器と接続する	51
端子について.....	51
コンピューターと接続する.....	52
コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する	53
データのバックアップと初期設定に戻す方法	54
データのバックアップ.....	54
初期設定(工場出荷時の設定)に戻すには.....	54
メッセージ一覧.....	55
困ったときは.....	56
付録	57

音色一覧	57
デモ曲一覧	57
初期設定一覧	58
組み立て方	59
仕様	63
索引	64
保証とアフターサービス	67

各部の名前と機能





- ① **[]電源スイッチ** 13ページ
電源のオン(●)/オフ(■)を切り替えます。
- ② **[MASTER VOLUME]スライダー** 14ページ
音量を調節できます。
- ③ **[DEMO]ボタン** 15ページ
音色ごとのデモ曲を聞くことができます。
- ④ **[TRANSPOSE]ボタン** 24ページ
弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えることができます。
- ⑤ **[REC]ボタン** 27ページ
ご自身の演奏を録音できます。
- ⑥ **[RIGHT]、[LEFT]ボタン** 17、30ページ
曲の特定のパートを再生オフにし、再生オフにしたパートをご自身で練習できます。
- ⑦ **[PLAY/PAUSE]、[STOP]ボタン** 16、41ページ
楽器本体に入っているピアノ50曲やご自身の演奏を録音したものなどを再生できます。
- ⑧ **[SONG SELECT]ボタン** 16ページ
再生や録音する曲を選べます。
- ⑨ **[FILE]ボタン** 34、37ページ
録音した曲をUSB記憶装置に保存するなどのファイル操作ができます。USB記憶装置のフォーマットもできます。
- ⑩ **[TEMPO/FUNCTION]ボタン** 26、44ページ
テンポを調節したり、各種の便利な機能を利用したりできます。
- ⑪ **[METRONOME]ボタン** 26、47ページ
メトロノームの機能を利用できます。
- ⑫ **画面** 13ページ
注記
画面に「--」が順番に表示されているとき(データアクセス中は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。
- ⑬ **[-/NO]、[+/YES]ボタン**
数値を設定したり曲や項目を選んだりできます。テンポやトランスポーズなどの値を設定しているときにボタンを2つ同時に押すと、元の値(初期設定値)に戻すことができます。
- ⑭ **音色ボタン** 19ページ
グランドピアノをはじめとした14種類の音色をお楽しみいただけます。
- ⑮ **[BRILLIANCE]、[REVERB]、[EFFECT]ボタン** 21ページ
音の明るさを調節したり(ブリリアンス)、音に残響(リバース)や、効果(エフェクト)をかけたりすることができます。
- ⑯ **[TOUCH]ボタン** 23ページ
強く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感度)を調節することができます。
- ⑰ **[DAMPER RES.]ボタン** 22ページ
このボタンを押して(オンの状態にして)、ダンパーペダルを踏むと、よりピアノのダンパー効果に近い効果が得られます。またダンパー効果の深さも設定できます。
- ⑱ **USB [TO DEVICE]端子** 51ページ
USB記憶装置を接続して、録音した曲を保存したり、記憶装置に入っているデータを楽器本体で再生したりできます。
- ⑲ **MIDI [IN][OUT]端子** 51ページ
MIDI機器を接続して、MIDIを活用できます。
- ⑳ **[PHONES]端子、[SPEAKER]スイッチ** 14ページ
[PHONES]端子にヘッドフォンを接続できます。
[SPEAKER]スイッチで、スピーカーのオン/オフを切り替えることができます。
- ㉑ **ペダル** 20ページ
主にピアノ演奏で使います。左ペダルに機能を割り当てて使うこともできます。
- ㉒ **[PEDAL]端子** 61ページ
ペダルコードを接続します。
- ㉓ **[AC IN]端子** 13、61ページ
電源コードを接続します。

ご使用前の準備

キーカバーについて

注意 キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。
また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの縁と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

注意 キーカバーを開けると、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

注記

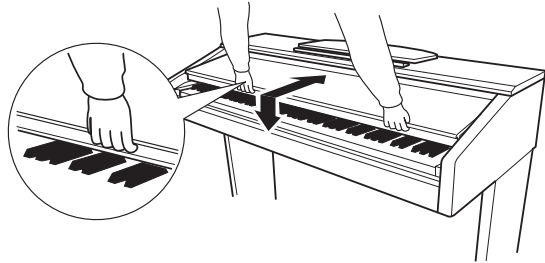
USB [TO DEVICE]端子に別売のUSB記憶装置を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB記憶装置を接続したままキーカバーを閉じると、記憶装置がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。

開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

閉めるとき

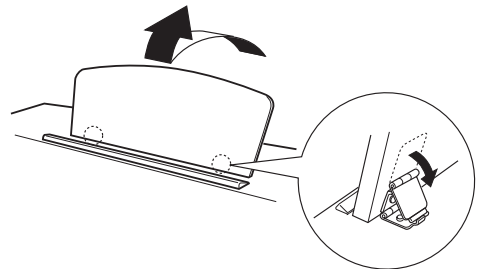
手前に引いて、静かに降ろします。



譜面立てについて

立てるとき

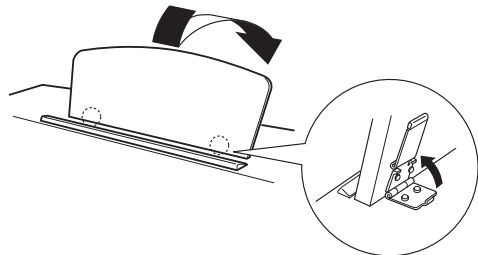
1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

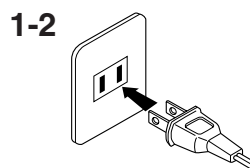
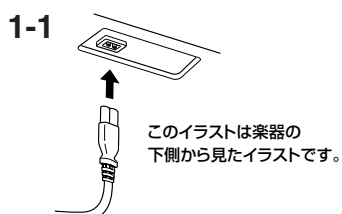
注意 金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。



電源を入れる

1. 電源コードを接続する

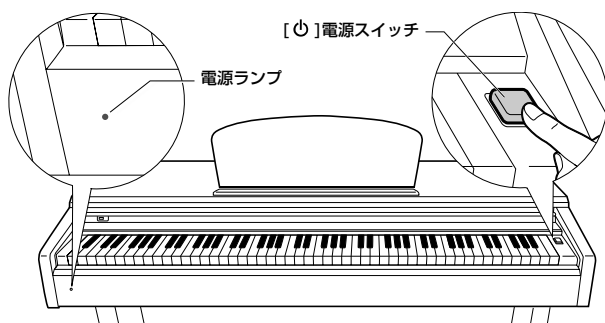
最初に本体側のプラグを差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。



2. 電源を入れる

鍵盤右の[⏻]電源スイッチを押すと、電源が入ります。

本体パネル中央の画面に表示が現れます。また、この楽器前面左の電源ランプが点灯します。



通常はテンポが表示されます。

電源ランプについて

電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯により、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

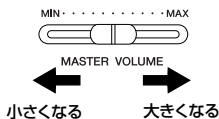
電源を切るときは、もう一度[⏻]電源スイッチを押します。

画面の表示が消え、この楽器前面左の電源ランプも消灯します。

⚠ 注意 電源を切った状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

音量(ボリューム)を調節する

本体パネル左の[MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



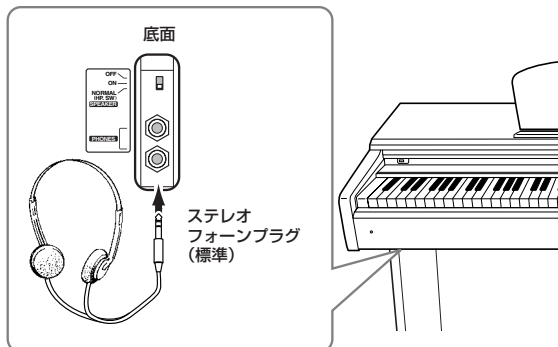
MASTER VOLUME (マスターボリューム)=全体の音量

注意 大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを[PHONES]^{フォーンズ}端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

注意 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

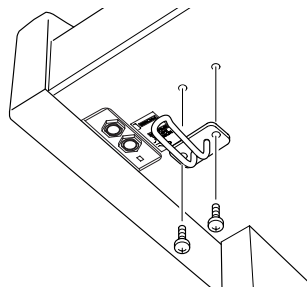


ヘッドフォンハンガー

付属のヘッドフォンハンガーを取り付けると、この楽器にヘッドフォンを掛けることができます。

付属のネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けてください。

注記
ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。
本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。



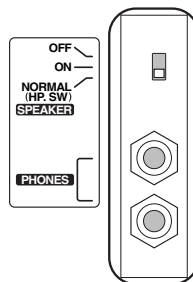
スピーカーのオン/オフを切り替える

スピーカーのオン/オフを切り替えることができます。

^{ノーマル}
NORMAL (HP. SW).....ヘッドフォンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。

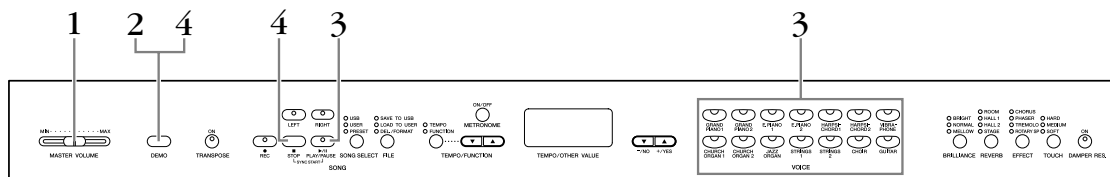
ON.....常にスピーカーが鳴ります。

OFF.....スピーカーは鳴りません。



デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



1. 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合) [ON] 電源スイッチを押します。

→電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、[MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}スライダを中程まで上げておいてください。

2. デモ曲モードに入る

[DEMO]^{デモ}ボタンを押します。

音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

3. 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずにSONG^{ソング}

[PLAY/PAUSE]^{プレイ/ポーズ}ボタンを押すと、GRAND PIANO 1の曲が再生されます。)

デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

4. 再生をストップしてデモ曲モードを抜ける

[DEMO]ボタンかSONG [STOP]^{ソング} ^{ストップ}ボタンを押します。

デモ曲の曲名については、「デモ曲一覧」(57ページ)をご参照ください。

デモ曲の再生データはMIDI (ミディ) 送信されません。また、デモ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(27ページ)のとき、ファイル操作中(33ページ)はデモ曲モードには入れません。

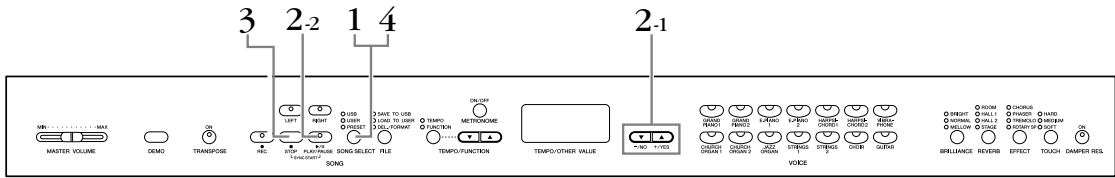
モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習」(17ページ)、「フレーズを指定して練習」(18ページ)はできません。

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、ピアノ50曲の演奏データが入っています。また付属の『ピアノで弾く名曲50選』には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。



1. ピアノ曲(プリセットソング)モードに入る

[SONG SELECT]^{ソングセレクト}ボタンを押して、「PRESET」^{プリセット}のランプを点灯させます。

2. 選曲と再生スタート

2-1 [-/NO][+ /YES]^ノボタンを押して、聞きたいピアノ曲を1曲選んだり再生方法を選びます。

1~50聞きたいピアノ曲を1曲指定して再生するモードです。

r n dピアノ50曲を順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。

ALLピアノ50曲を順番に、ストップするまで連続再生するモードです。

2-2 SONG [PLAY/PAUSE]^{ソング}ボタンを押すと再生がスタートします。

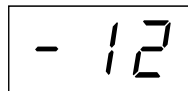
音量の調節

ピアノ曲を聞きながら[MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}スライダーで音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが[TEMPO/FUNCTION]^{テンポ/ファンクション}▼▲ボタンを押してテンポを変更できます。

▼▲ボタンを同時に押すと曲固有のテンポに戻ります。



操作時、曲固有のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50~50)で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)曲固有のテンポのときは「0」と表示されます。

3. 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、SONG [STOP]^{ソング}ボタンを押します。

続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

再生途中にSONG [PLAY/PAUSE]^{ストップ}ボタンを押すと、曲が一時停止します。

4. ピアノ曲モードを抜ける

[SONG SELECT]^{ソングセレクト}ボタンを押します。

[SONG SELECT]のランプが消灯します。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手パートの再生をオフにご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

デモ曲モード(15ページ)のとき、録音モード(27ページ)のとき、曲の再生中(40ページ)ファイル操作中(33ページ)はピアノ曲モードには入れません。

ソングとは

この楽器では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

手弾き音と再生音用に

[BRILLIANCE (ブリリアンス)] (21ページ)、[REVERB (リバーブ)] (21ページ)の設定を変更できます。手弾き音用に[EFFECT (エフェクト)] (22ページ)、[TOUCH (タッチ)] (23ページ)の設定を変更できます。

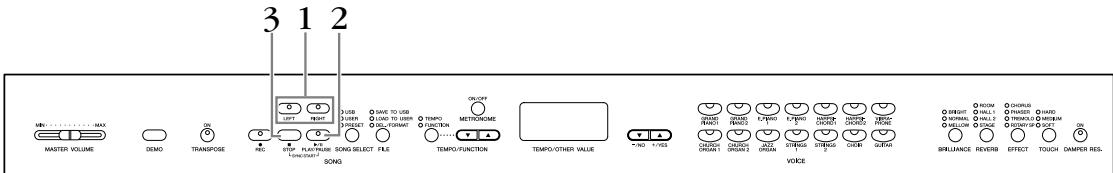
テンポのリセット(再設定)

新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

[REVERB]、[EFFECT]は新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)その曲に合ったリバーブ/エフェクトになります。

ピアノ50曲を片手で練習する

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートに分かれています。それぞれの再生をオン/オフし、再生をオフにしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが[RIGHT]に、左手パートが[LEFT]に入っています。



1. 練習するパートの再生をオフにする

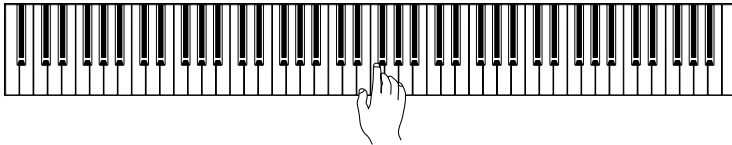
選曲したあと、[RIGHT][LEFT]ボタンのうち再生させない側のパート(練習したいパート)のボタンを押してランプを消灯させます。(選曲した時点では[RIGHT][LEFT]共ランプが点灯しています。)

押した方のボタンのランプが消灯します。

それぞれのボタンは、押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。

2. 再生スタート/演奏

ソング プレイ/ポーズ
SONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押して再生をスタートします。再生をオフにしたパートをご自身で演奏してください。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

ソング ストップ
SONG [STOP]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押すとシンクロスタート待機状態になります。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

左のペダルで再生/一時停止する

左のペダルで再生/一時停止することができます。

ファンクション(47ページ)で左のペダルの機能を再生/一時停止(パネルのSONG [PLAY/PAUSE]と同じ機能)に切り替えます。

3. 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、SONG [STOP]ボタンを押します。

再生途中でSONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、曲が一時停止します。

ピアノ50曲をALL (オール)とr n d (ランダム)(16ページ)で再生しているときは、パートの再生をオフにすることはできません。

再生中の、パートごとの再生オン/オフ

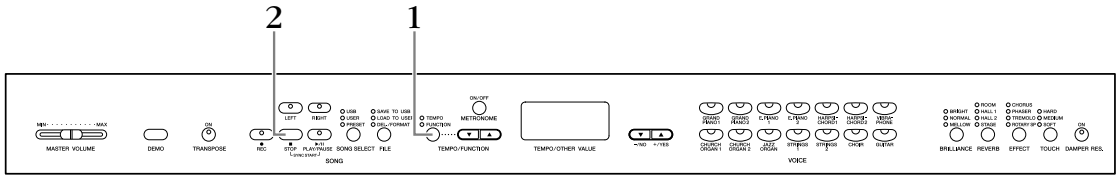
再生中でも、パートごとの再生オン/オフを切り替えることができます。

シンクロ=同時の、同時に起こる

パート再生のリセット(再設定)
新しい曲を選ぶと自動的に両パートとも再生オンにリセットされます。

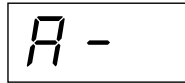
ピアノ50曲のフレーズを指定して練習する

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」も一緒にお使いいただけます。



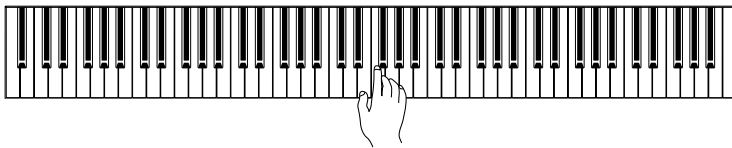
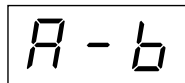
1. フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところでテンポ/ファンクション[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。始まり(A点)が設定され、画面に **A -** と表示されます。



続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

終わり(B点)が設定され、画面に **A - b** と表示されます。同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2. 練習ストップ

A点、B点の設定を保ったまま一時練習をストップするときはソング SONG [STOP]ボタンを押します。(この場合、ソング SONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときにはもう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

ピアノ50曲をALL (オール)とrnd (ランダム)(16ページ)で再生しているときは、繰り返し練習はできません。

曲の先頭から繰り返しを始めたいときは

再生をスタートする前に[TEMPO (テンポ)/FUNCTION (ファンクション)]ボタンを押して始まり(A点)を設定します。

曲の終わりをB点に設定したいときは

A点を設定したあとで曲の終わりまで再生すると、曲の終わりが自動的にB点に設定されます。

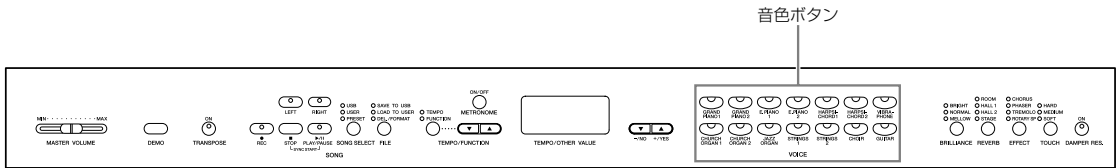
再生の出だしでタイミングをとるためのタクト音が鳴ります。

新しい曲を選ぶと

A点、B点は自動的に解除されます。

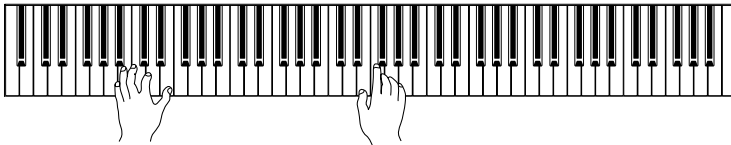
音色を楽しむ

音色を選ぶ



使いたい音色ボタンを押します。
ランプが点灯します。

マスターボリューム
[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節しながら演奏してください。



音色の特徴をつかむには
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください(15ページ)。
「音色一覧」(57ページ)もご参照ください。

音色ボタンの下に印刷されている「VOICE (ボイス)」は、「声」や「音」などの意味があります。

タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(57ページ)をご参照ください。

ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。

右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

ダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。

ダンパーレゾナンス

[DAMPER RES.]ボタンをオンにして、ダンパーペダルを踏むと、グランドピアノのような共鳴効果が得られます。

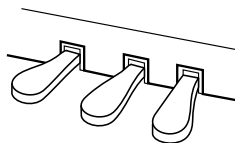
まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

ダンパーペダルが効かない

ペダルコードのプラグが[PEDAL (ペダル)]端子に差し込まれていないと思われる場合があります。確実に差し込んでください(61ページ)。

ハーフペダル機能とは

ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、ペダルを踏み込んだ状態から少し戻し、音の響きを押さえる(音の濁りを減らす)機能です。

オルガンやストリングス、クワイアの音色では

ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

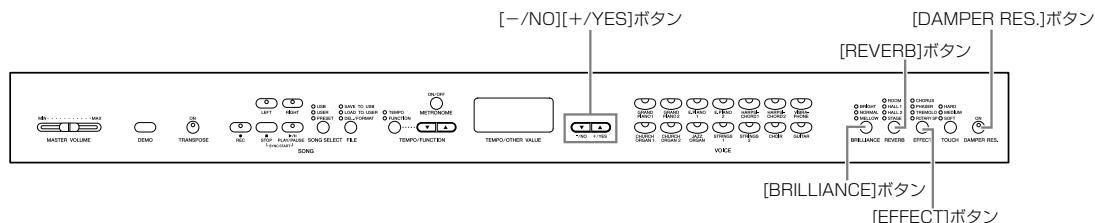
左のペダルの機能切り替え

ファンクション(47ページ)で左のペダルをパネルのSONG [PLAY/PAUSE (プレイ/ポーズ)]と同じ機能に切り替えることができます。

ファンクションでソフトペダルの効果の深さを設定できます(47ページ)。

ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

音に変化を付ける[BRILLIANCE]/[REVERB]/[EFFECT]/ ダンパーレゾナンス [DAMPER RES.]



ブリリアンス [BRILLIANCE]

音質を調節します。BRIGHT(ブライト)にするほど明るく鋭い音になり、MELLOW(メロウ)にするほど柔らかくまるやかな音になります。ブリリアンスの設定は、楽器全体にかかります。

操作

[BRILLIANCE]ボタンを押すごとに音質が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。ブリリアンスは、5種類の音質が選べます。2つのランプが点灯している場合は、2つの音質の中間の設定になっています。たとえば、NORMAL(ノーマル)とMELLOW(メロウ)のランプが両方点灯していたら、NORMALとMELLOWの中間の音質が選ばれていることになります。

リバーブ [REVERB]

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

オフ リバーブはかかりません。

ルーム 部屋の中にいるような響きになります。

ホール1 小さいコンサートホールにいるような響きになります。

ホール2 大きいコンサートホールにいるような響きになります。

ステージ ステージにいるような響きになります。

操作

[REVERB]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

深さ(かかり具合)を変える

[REVERB]ボタンを押している間は画面にリバーブの深さの値が表示されます。

[REVERB]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さの値(0~20)が変わります。

初期設定

NORMAL (ノーマル)

BRIGHT(ブライト)にすると、音量が少し大きくなりますので、[MASTER VOLUME(マスターボリューム)]が上がっていると、音がひずむことがあります。この場合、[MASTER VOLUME]を少し下げてください。

初期設定

音色ごとにリバーブの種類(オフ含む)が設定されています。

リバーブの種類は[REVERB(リバーブ)]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[REVERB]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[REVERB]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

深さ0: 効果なし~
深さ20: 深さ最大

初期設定

音色ごとに標準の深さが設定されています。

エフェクト [EFFECT]

音に効果を付け加えます。
その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

オフエフェクトはかかりません。

コーラス
CHORUS広がり感を付けます。

フェーザー
PHASERうねりを持たせます。

トレモロ
TREMOLLO音量を揺らします。

ロータリースピーカー
ROTARY SPロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているよう
なビブラート感が得られる効果です。

操作

[EFFECT]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。
選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

深さ(かかり具合)を変える

[EFFECT]ボタンを押している間は画面にエフェクトの深さの値が表示されます。
[EFFECT]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さの値(0
~20)が変わります。

ダンパー レゾナンス [DAMPER RES.]

[DAMPER RES.]をオンにしてダンパーペダルを踏むと、ダンパーの残響音が付加され、
ピアノのダンパーペダルを踏んだときに近い効果が得られます。深さも設定できます。
[DAMPER RES.]の設定は、楽器全体にかかります。

操作

[DAMPER RES.]ボタンを押すごとにオン/オフが切り替わります。
ランプが点灯したときがオンです。

深さ(かかり具合)を変える

[DAMPER RES.]ボタンを押している間は画面に[DAMPER RES.]の深さの値が表示
されます。[DAMPER RES.]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを
押すと、深さの値(0~20)が変わります。

初期設定

音色ごとにエフェクトの種類(オフ
も含む)が設定されています。

エフェクトの種類は[EFFECT(エ
フェクト)]ボタンを押して離れたと
きに切り替わります。[EFFECT]
ボタンを押したまま深さを変更し
たときは、[EFFECT]ボタンを離
しても種類は切り替わりません。

深さ0: 効果なし~
深さ20: 深さ最大

初期設定

音色ごとに標準の深さが設定され
ています。

初期設定

オン

深さ 0: 効果なし~
深さ20: 深さ最大

タッチ

タッチ感度を設定する[TOUCH]

強く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感度)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

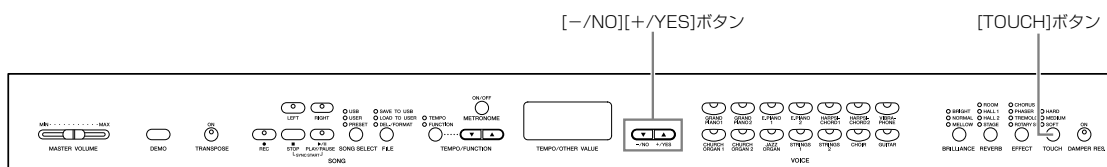
- ハード
HARD 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。
- ミディアム
MEDIUM 標準的なタッチです。
- ソフト
SOFT 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。
- フィックス
FIXED タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD=「強い」
MEDIUM=「中間の、中位の」
SOFT=「やさしい、柔な」
FIXED=「固定された」

初期設定 MEDIUM

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」(57ページ)をご参照ください。



操作

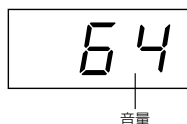
[TOUCH]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。

FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、[TOUCH]ボタンを押している間は画面に音量を示す値が表示されます。

[TOUCH]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、音量を示す値(1~127、初期設定=64)が変わります。



1: 最小音量 ~
127: 最大音量

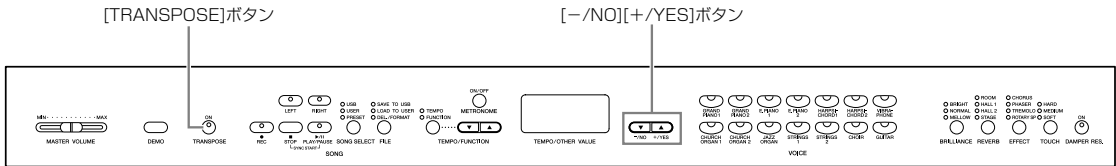
FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

タッチの種類は[TOUCH]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[TOUCH]ボタンを押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、[TOUCH]ボタンを離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

トランスポーズ キー (調) を変える [TRANPOSE]

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー (調) を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。

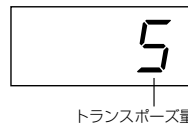
たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。



操作

[TRANPOSE]ボタンを押している間は画面にトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。

[TRANPOSE]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12~0~12、初期設定=0)が変わります。



通常[TRANPOSE]ボタンのランプは、[TRANPOSE]ボタンを押している間だけ点灯しますが、トランスポーズ量を0 (ゼロ) 以外に設定したときは、ボタンから指を離しても、点灯し続けます。

0以外に設定したあとは、[TRANPOSE]ボタンを押すごとに、トランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。

TRANPOSE : 移調する

移調: 曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー (調) を変えること。

トランスポーズ量

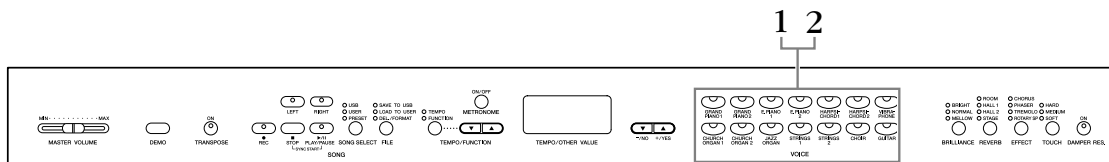
-12: -12半音(-1オクターブ)

0: 標準の音の高さ

12: 12半音(+1オクターブ)

2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて使うことができます。2つの音色でメロディーをデュエットさせたり、同系統の音色を重ねて厚みのある音を作り出したりすることができます。



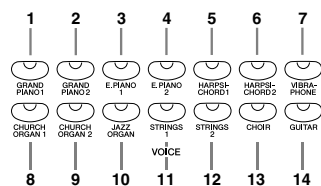
1. デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(または1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

2つの音色ボタンのランプが点灯します。

※ 右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。

優先順位



デュアルでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF3」(46ページ)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2. デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態に戻ります。

デュアル=2つ

デュアルのときの[REVERB (リバーブ)]

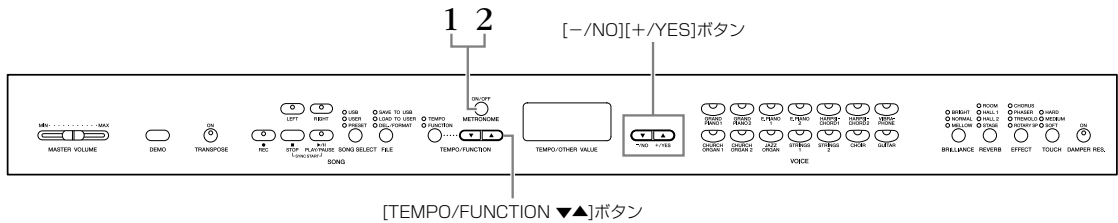
第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(オフの場合は第2音色のものになります。)

デュアルのときの[EFFECT (エフェクト)]

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに初期設定を持っていますが、「ファンクションF3」(46ページ)で音色ごとに任意に設定することもできます。

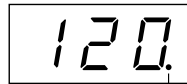
メトロノームを使う (METRONOME)

この楽器には、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。



1. メトロノームを鳴らす

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押します。
メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、
テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

テンポ / ファンクション
[TEMPO/FUNCTION]ボタンのTEMPOのランプが点灯している状態で、[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]ボタンを押すとテンポの値(32~280 [1分間の拍数]、初期設定=120)が変わります。

拍子の設定

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押している間は画面に拍子が表示されます。

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押して拍子0~15を設定します。
1拍目に「チーン」と鳴りその他の拍では「カチ」と鳴ります。
0に設定したときは「チーン」と鳴らずに、すべての拍で「カチ」と鳴ります。



拍子

[TEMPO/FUNCTION]ボタンのTEMPOのランプが消灯している場合は、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押して、TEMPOのランプを点灯させてください。

メトロノームの音量はファンクション(47ページ)で設定できます。

2. メトロノームを止める

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押します。
メトロノームが止まります。

演奏を録音(記録)する

録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。

練習の中で、ご自身の演奏を録音して聞いてみたり、左手(右手)パートだけ録音しておいて、再生させながら右手(左手)パートを練習したりすることもできます。

また、2つの録音パートに別々に録音できますので、右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して完成させたりすることもできます。

この楽器では、3曲まで録音することができます。この楽器で録音した曲を「ユーザーソング」と呼びます。ユーザーソングは別売のUSB記憶装置にも保存できます。

「録音」と「記録」

カセットテープに録音するのと楽器の録音機能を使って録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

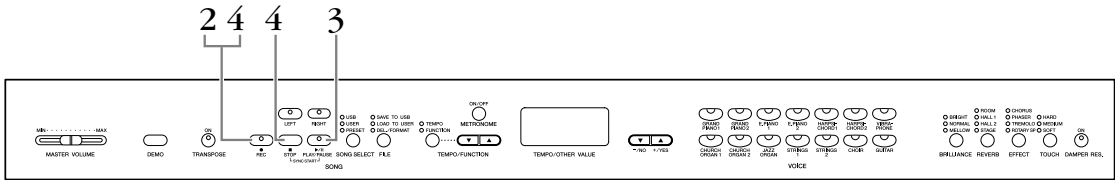
カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、楽器の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

楽器の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

演奏を簡単に録音する

練習中のピアノ曲を録音して聞いてみるなど、録音パートを指定せずに手軽に録音する方法です。

この方法では、自動的に^{ライト}[RIGHT]に録音されます。



注記 録音済みのパートを消さないために

すでに録音されているパートのランプは、緑に点灯します。

このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

演奏をUSB記憶装置に直接保存することはできません。録音後に楽器本体に自動保存されたデータを、USB記憶装置に保存し直してください(34ページ)。

1. 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。

必要に応じてそのほかの設定(リバーブやエフェクトなど)も変更してください。

^{マスターボリューム}
[MASTER VOLUME]スライダーは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節することができます。

2. 録音モードに入る

^{レコード}
[REC]ボタンを押します。

→ U01~U03が表示されていない場合に[REC]ボタンを押すと、ユーザーソング U01~U03のうちまだ録音されていないソングが自動的に選ばれ、[RIGHT]パートがオンになります。空のソングがない場合はU01~U03のうちU01が選ばれます。

^{ソング} ^{プレイポーズ}
SONG [PLAY/PAUSE]のランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

デモ曲モードのときとファイル操作中のときは録音モードに入ることができません。

演奏記憶容量

この楽器は3曲まで録音できますが、それぞれ1曲分の容量は100KBでおよそ11,000音符分になります。

同じ曲で前回[LEFT]パートを選んでいると、手順2で[REC]ボタンを押したときに[LEFT]パートがオンになります。

メトロノームを使う

メトロノームを使って録音することもできます。手順2でメトロノームをオンにしてください。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音されるデータの種類については、31ページをご覧ください。

3. 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音が始まります。または、SONG [PLAY/PAUSE]^{ソング} ボタンを押すと録音が始まります。

→ 画面に録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



4. 録音をストップする

SONG [STOP]^{ソング} または [REC]^{ストップ} ボタンを押します。

→ 録音をストップすると、「-」が流れて表示され保存中であることを示します。保存が終わると、曲名(U01~U03)が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

注記 「-」が表示されているときに電源を切らないでください。「---」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(40ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

左のペダルを使ってスタートするファンクション(47ページ)で左のペダルをパネルのSONG [PLAY/PAUSE] ボタンと同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートできます。

録音中に記憶残容量がなくなってしまった場合

画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

録音した演奏を聞いてみる

1. 演奏を再生する

SONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。

2. 再生をストップする

SONG [STOP]ボタンを押すと、再生が止まります。

録音し直す

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1. 必要に応じて、変更したい内容(音色やその他の設定)を選び直す

録音した設定内容を変えたい場合に行なってください。
録音されるデータの種類は31ページを参照してください。

2. 再び録音モードに入る

再び[REC]ボタンを押します。

→ 今録音したパートが自動的に録音パートとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、「演奏を簡単に録音する」(前述)の手順3からの操作に従って録音します。

演奏内容を変更しないで、音色などの設定だけを変更したい場合はここで[REC]を押して録音を終了します。

テンポ、[REVERB]の種類、
[EFFECT]の種類の変更は、録音
モードに入ったあとで行なってく
ださい。

曲の途中から録音し直すことはで
きません。

RIGHT/LEFTパートに録音する

右手(RIGHT)、左手(LEFT)のパートを選んで、各パートを別々に録音する方法です。右手パートを再生させながら左手パートを録音できますので、連弾曲を1パートずつ録音するのに便利です。

1. 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2. 録音先のユーザーソングをU01~U03から選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押して「USER」のランプを点灯させてから、[-/NO][+/YES]ボタンを押して録音先を選びます。

注記 録音済みのパートを消さないために
すでに録音されているパートのランプは、緑に点灯します。このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

3. 録音モードに入る

[REC]ボタンを押してから録音するパートのボタン([RIGHT]/[LEFT])を押します。
→ 指定したパートのランプが赤く点灯します。

また、SONG [PLAY/PAUSE]のランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

4. 指定したパートに録音する

「演奏を簡単に録音する」の手順3からの操作(28ページ)に従って録音します。

パートボタンのランプの色

消灯: データなし
点灯(緑): データあり
点灯(赤): 録音指定

演奏記憶容量

この楽器は3曲まで録音できますが、それぞれ1曲分の容量は100KBでおよそ11,000音符分になります。

メトロノームを使う

メトロノームを使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

メトロノームの拍子を変更する場合は録音モードに入る前に変更してください。テンポ、[REVERB]の種類、[EFFECT]の種類を変更する場合は録音モードに入ってから変更してください。

録音したソングの拍子を変更できません。

拍子を変更して録音をやり直す場合は、USB記憶装置にソングデータを保存し(34ページ)、本体のソングデータを全パート削除(31ページ)し、拍子を変更して録音をし直します。

前に録音したパートのデータの再生をオフにして録音するには

再び録音モードに入る前(手順3の前)に、前に録音したパートのボタンを押し、緑色のランプを消灯させ、手順3に進みます。

録音されるデータの種類については、31ページをご覧ください。

録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。下記のように「パートごとに録音されるデータ」と「2つのパートで共通に録音されるデータ」があります。

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- 音色
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- [REVERB]^{リバーブ}の深さ
- [EFFECT]^{エフェクト}の深さ
- デュアルの音色
- デュアル音量バランス
- デュアルデチューン
- デュアルオクターブシフト

2つのパートで共通に録音されるデータ

- テンポ
- 拍子
- [REVERB]の種類(オフも含む)
- [EFFECT]の種類(オフも含む)

録音した演奏を削除する

録音したユーザーソングを、パートごとに削除する方法です。

1. 削除するユーザーソングをU01～U03から選ぶ

[SONG SELECT]^{ソングセレクト}のボタンを押して、[USER]^{ユーザー}のランプを点灯させます。その後[-/NO][+/YES]ボタンを押して削除したいユーザーソングを選びます。

2. 録音モードに入り、削除するパートを選ぶ

[REC]^{レコード}ボタンを押してから、削除するパートのボタン([RIGHT]^{ライト}/[LEFT]^{レフト})を押します。指定したパートのランプが赤く点灯します。

また、SONG [PLAY/PAUSE]^{ソング プレイ/ポーズ}のランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

削除を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

3. 削除する

SONG [PLAY/PAUSE]ボタンで録音をスタートし、何もせずSONG [STOP]^{ソング ストップ}ボタンで録音をストップします。

そのパートのデータがすべて削除されます。

録音したユーザーソングを両パート([RIGHT]/[LEFT])削除するには、この手順を各パートで行なってください。

初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

以下のデータの初期値を変更することができます。

パートごとのデータ

- 音色
- [REVERB]^{リバーブ}の深さ
- [EFFECT]^{エフェクト}の深さ
- デュアルの音色
- ダンパー / ソフトペダルのかかり具合

2つのパートに共通のデータ

- テンポ
- [REVERB]の種類 (オフも含む)
- [EFFECT]の種類 (オフも含む)

1. 変更したい項目をパネルで操作して変更します。

たとえば、録音した[E. PIANO 1]^{エレクトリックピアノ}の音色を[E. PIANO 2]に変更したい場合は、ここで[E. PIANO 2]ボタンを押します。

2. 録音モードに入り、初期値を変更するパートを選びます。

ランプが赤く点灯します。(2つのパートで共通に録音されるデータはどちらのパートを選んで変更されます。)

注記 ここで鍵盤やSONG [PLAY/PAUSE]^{ソング} ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

3. [REC]^{レコード} ボタンを押して録音モードを抜けます。

曲をUSB記憶装置に保存するなどの ファイル操作をする

録音機能を使って録音した曲をUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置をフォーマットするなどのファイル操作を行ないます。

USB記憶装置をご使用になる前に「USB機器の取り扱いについて」(38ページ)をご覧ください。

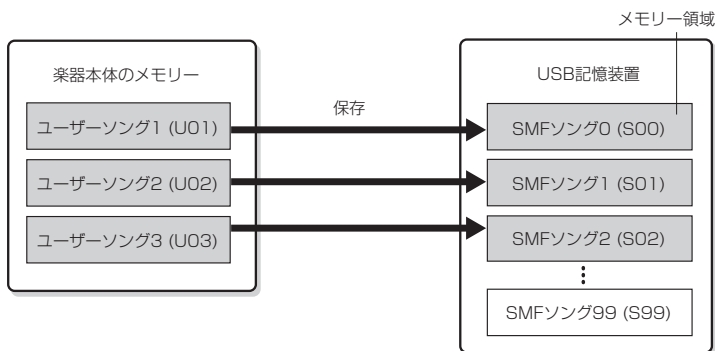
USB記憶装置の接続については、「USB機器の取り扱いについて」(38ページ)をご参照ください。

USB記憶装置を使用する前に、記憶装置にプロテクトがかかっていないかどうか確かめください。プロテクトがかかっていると、記憶装置にアクセスできません。

保存と読み込みについて

保存(SAVE)

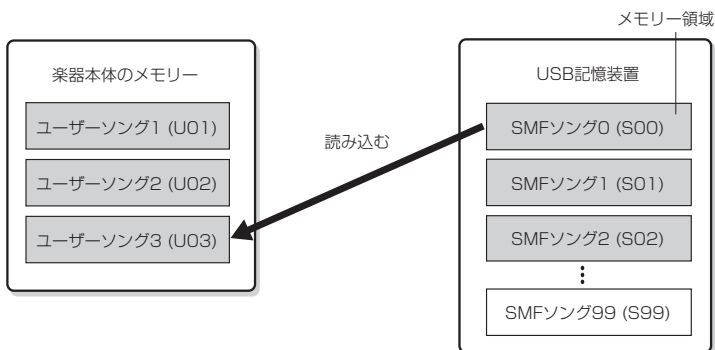
この楽器で録音したユーザーソングを、1曲ずつ、ひとつのファイル(SMFソング)としてUSB記憶装置に保存できます。メモリー領域は、全部で100 (S00~S99)あります。保存したソングデータは、SMFというほかのMIDI機器などと互換性のあるフォーマット形式で保存されますので、ほかの楽器で再生することもできます。



読み込み(LOAD)

USB記憶装置内のソングを再生するだけの場合はここでの読み込み操作は必要ありません。再生方法は「USB記憶装置に保存されている曲を再生する」(42ページ)を参照してください。上記で保存したソングファイルを楽器上で編集したい場合だけ、読み込み(LOAD)操作を行います。

ソングは1ソングだけ読み込み可能で本体のユーザーファイルU03に読み込まれます。



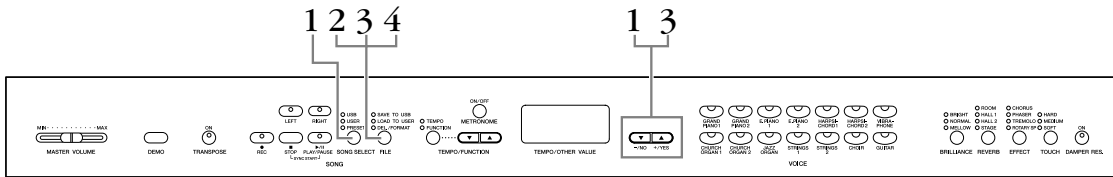
ファイル名の最初についている「U」は、ユーザー (USER)ソングの「U」、 「S」はSMFソングの「S」です。

SMF (Standard MIDI File)

代表的なシーケンスフォーマット (演奏データを記録する形式)のひとつです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があります。多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。この楽器で録音した曲はSMFフォーマット0で保存されます。

録音した曲を1曲ずつUSB記憶装置に保存する

SMF(Standard MIDI File)
33ページをご参照ください。



1. 保存するユーザーソングを選ぶ

[SONG SELECT]ボタンで「^{ユーザー}USER」を点灯させ[-/NO][+/YES]ボタンで、保存するユーザーソングを選びます。

2. ファイル操作モードに入る

USB記憶装置が楽器に接続されているのを確認してから、[FILE]ボタンを押して「^{セーブ トゥー ユーエスビー}SAVE TO USB」のランプを点灯させます。

3. USB記憶装置内の保存先を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま[-/NO][+/YES]ボタンを押して、メモリー領域(S00-S99)を選びます。[FILE]ボタンを離れたときに「n y (no/yes)」が表示されます。保存する場合は[+/YES]ボタンを押します。「-」が流れて表示され保存中であることを表します。

ユーザーソングはUSB記憶装置内の「^{ユーザーファイル}USERFILES」フォルダーにSMF形式で保存され、自動的に「USESONGXX.MID」というファイル名が付けられます。

SMFソングの上書き

すでにSMFソングが保存されているメモリー領域を選んだときは、「S.X.X.」のように、画面にピリオドが3つ表示されます。上書きを中止する場合は、「n y (no/yes)」が表示されたときに[-/NO]ボタンを押してからほかの領域を選び直します。上書きするときには、「n y (no/yes)」が表示されたときに[+/YES]ボタンを押します。上書きを確認するために「n-y」が表示されますので、もう一度[+/YES]ボタンを押して上書きします。

注記 保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後 [FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまで)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

4. ファイル操作モードを抜ける

[FILE]ボタンを何回か押して、ファイル操作モードを抜けます。([FILE]ボタンのランプを消灯させます。)

保存したソングの再生方法は40ページを参照してください。

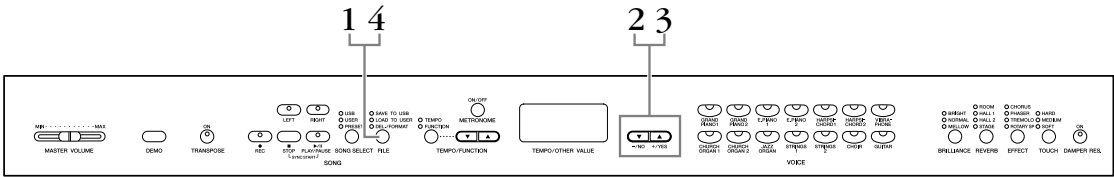
ユーザーソングに曲データがない場合は、保存できません。(メモリー領域S00~S99が選ばせん。) [RIGHT(ライト)]/[LEFT(リフト)]ボタンのランプが点灯してデータがあることを確認してください。

USB記憶装置の取り扱いについては、38ページを参照してください。

USB記憶装置の空き容量が不十分な場合は、保存できません。不要なファイルを削除(36ページ)するなどして、空き容量を確保してください。

コンピューターを使用してソングを「USER FILES」フォルダーから一番上の階層に移動させた場合は、楽器では外部ソング(41ページ)として扱います。

USB記憶装置に保存した曲を楽器に読み込む



注記 (楽器U03にソングがすでにある場合)読み込みを実施するとU03のソングは上書きされて消えてしまいます。大切なデータはあらかじめ外部の記憶装置やコンピューターに保存しておいてください。

1. 読み込み(Load)モードに入る

USB記憶装置が楽器に接続されていることを確認してから、[FILE]ボタンで
[LOAD TO USER]のランプを点灯させます。

2. 読み込む曲を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま、[-/NO][+/YES]ボタンを押して読み込みたいソング
ファイルを選びます。
ここで読み込むソングファイルは楽器から保存したソングファイルだけです。

3. 読み込む

「n y (no/yes)」の確認が表示されますので[+/YES]を押します。
読み込みが始まり、「-」が流れて表示され読み込み中であることを表します。

注記 保存/読み込み/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後[FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅中)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

注記 ユーザーファイルの名前をコンピューターで変更しないでください。ユーザーファイルの名前を変更すると、楽器に読み込めなくなります。

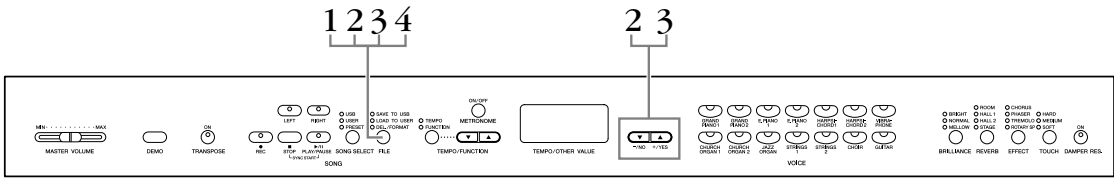
注記 「-」が流れて表示されているときに電源を切らないでください。「-」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(41ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

読み込みが終了すると「End」が表示されます。ソングファイルは本体のユーザー 3 (U03)に読み込まれました。

4. 読み込みモードを抜ける

[FILE]ボタンを何回か押して、ファイル操作モードを抜けます。([FILE]ボタンのランプを消灯させます。)

USB記憶装置に入っている曲を削除する



1. ファイル操作モードに入る

USB記憶装置が接続されている状態で、**[FILE]**ボタンを押して「**DEL./FORMAT**」のランプを点灯させます。

2. 削除する曲を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま**[-/NO]****[+/YES]**ボタンを押して、削除する曲を選びます。以下の曲ファイルが順番に表示されます。

- Sxx SMFソング
- xxx 外部ソング(市販のミュージックデータやコンピューターで編集した曲など)

3. 曲を削除する

[FILE]ボタンを離して「n y (no/yes)」を表示させ、**[+/YES]**ボタンを押します。削除を確認するために「n y」が表示されますので、もう一度**[+/YES]**ボタンを押します。削除を中止するときは、**[-/NO]**ボタンを押します。

注記 保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後**[FILE]**ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまでは、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

4. ファイル操作モードを抜ける

[FILE]ボタンを押して、ファイル操作モードを抜けます。(**[FILE]**ボタンのランプを消灯させます。)

削除モードに入ると曲の再生ができなくなります。削除する曲を再生して確認する場合は、削除モードに入る前に行なってください。

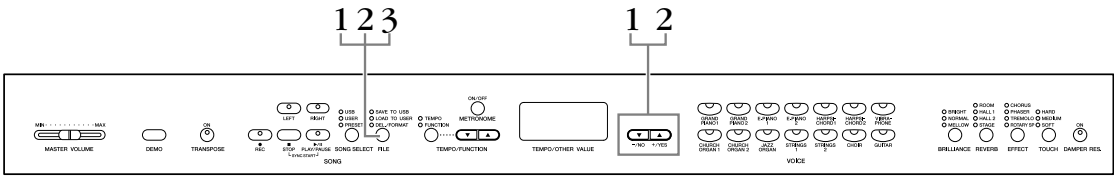
ファイルが入っているメモリー領域のみが表示されます。

下記のファイルは削除できません。(削除しようとすると「Pro (Protected)」が表示されます。)

- プロテクトがかかった曲(拡張子が.Cxx、.Exx、.SMEのもの)
- ピアノプレーヤ用の曲
- MUMAフォルダーに入っている曲

SMFソング(Sxx)は、ファイルは削除してもファイル番号が固定されたままで入れ替わりません。外部ソングは、ファイルを削除するとファイル番号が自動的に入れ替わったり移動したりします。

USB記憶装置をフォーマットする



注記 フォーマットを実行するとUSB記憶装置に保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。

1. フォーマットモードに入る

USB記憶装置が接続されている状態で、^{ファイル}[FILE]ボタンを押して「DEL./FORMATL」のランプを点灯させます。

[FILE]ボタンを押したまま[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押し、

「For (Format)」^{フォーマット}を表示させます。

2. フォーマットする

[FILE]ボタンを離して「n y (no/yes)」を表示させ、[+/YES]ボタンを押します。

フォーマットしてもよいかどうかを確認するために「n y」が表示されますので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

フォーマットを中止するときは、[-/NO]ボタンを押します。

注記 保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後 [FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまで)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

3. フォーマットモードを抜ける

[FILE]ボタンを押して、フォーマットモードを抜けます。([FILE]ボタンのランプを消灯させます。)

USB機器の取り扱いについて

USB TO DEVICE端子ご使用上の注意

この楽器にはUSB TO DEVICE端子があります。USB TO DEVICE端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、ハードディスクドライブなど)

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/piano-keyboard/usb/>

NOTE 上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなどは、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

- USB TO DEVICE端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。

注記 トップパネルのUSB TO DEVICE端子にUSB機器を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB機器を接続したままキーカバーを閉じると、USB機器がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。

- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

NOTE USB記憶装置としてCD-R/RWドライブを接続した場合、CD-ROMのデータ(MIDIデータ)を楽器本体で再生/再現することはできませんが、楽器本体のデータを保存してCD-ROMを作ることはできません。

■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、1台だけです。

■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。USB TO DEVICE端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にフロッピーディスクなどのメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(37ページ)。

注記 フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB記憶装置の抜き差し

USB記憶装置を外すときは、保存/削除などデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

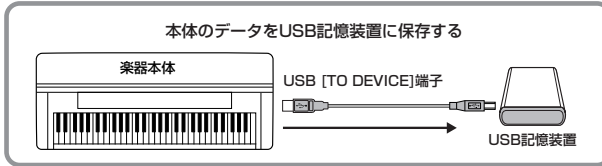
注記 USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディア取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

■ USB記憶装置からの選曲

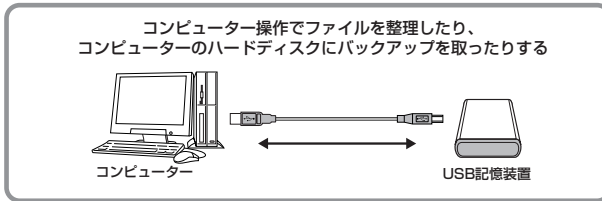
USB記憶装置に入っている曲をこの楽器で選ぶには、ソングセレクト [SONG SELECT]ボタンを押して「USB」のランプを点灯させてから[-/NO][+/YES]ボタンで選曲します。
詳細は、42ページをご覧ください。

コンピューターのハードディスクにバックアップ

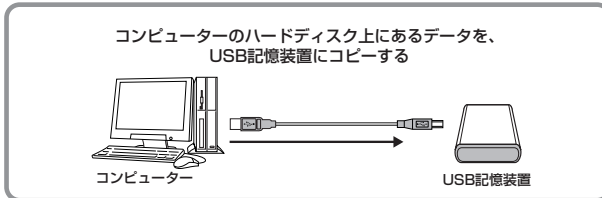
■ **楽器本体で作ったデータをコンピューターのハードディスクにバックアップする**
楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したあと、メディアをコンピューターに読み込ませてファイルを整理したり、コンピューターのハードディスクにコピーすることでバックアップをとったりできます。



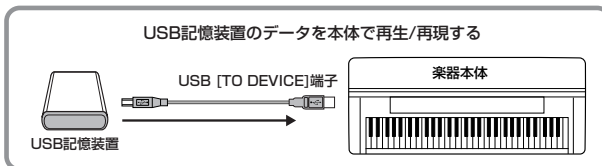
USB記憶装置を楽器本体から外し、コンピューターへ接続する



■ **コンピューター上のデータをUSB記憶装置にコピーして楽器本体で再生/再現する**
コンピューターのハードディスクに保存してあるファイルを、USB記憶装置にコピーしたあと、それらのファイルを楽器本体で再生/再現できます。
楽器本体で作ったファイルだけでなく、楽器本体以外で作られたスタンダードMIDIファイルなどを、コンピューターのハードディスクからUSB記憶装置にコピーし、それらを楽器本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続して、楽器本体で再生/再現することもできます。



USB記憶装置をコンピューターから外し、楽器本体へ接続する



曲を再生する

録音機能を使って録音した曲や市販のミュージックデータなどを再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。

この楽器で再生できる曲

- **デモ曲** 15ページ
音色ごとのデモ曲です。
- **ピアノ50曲(プリセットソング)** 16ページ
楽器本体に入っているピアノ50曲です。
- **楽器本体に保存したユーザーソング** 41ページ
この楽器で録音し、楽器本体に保存されている曲です。
- **楽器本体に保存した外部ソング** 41ページ
ソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使って、コンピューターから楽器に保存した曲です(53ページ)。これらの曲は、ユーザーソングとは別のメモリーに保存されます。この楽器では255曲(曲番号001~255)まで選択できます。
- **USB記憶装置に保存したユーザーソング** 42ページ
この楽器で録音した曲をUSB記憶装置に保存したファイルです。
- **USB記憶装置に保存した外部ソング** 42ページ
市販の曲やコンピューターで編集した曲などをUSB記憶装置に保存したものです。この楽器では999曲(曲番号001~999)まで選択できます。

この楽器が対応しているシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)

- **SMF (Standard MIDI File) フォーマット0と1**
スタンダード ミディ ファイル
代表的なシーケンスフォーマットのひとつです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があります。多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。この楽器で録音した曲はSMFフォーマット0になります。
- **ESEQ**
イーシーク
ヤマハの多くの機器やミュージックデータで採用されている代表的なシーケンスフォーマットのひとつです。この楽器で再生できるESEQファイルは、ピアノプレーヤ用のソングのみです。

この楽器に入っている音色以外の音色を含む曲(XGやGMソングなど)を再生した場合、元の曲の音色が正確に再現されないことがあります。その場合、曲再生チャンネル選択(47ページ)を「1&2」に切り替えると3~16チャンネルの再生が消音され、より自然に聞こえることがあります。

曲のロード(読み込み)ができない場合は、文字種を切り替えてみてください(50ページ)。

曲の再生データは、MIDI送信されません。ただし下記のソングで曲再生チャンネル選択(47ページ)が「1&2」の場合は、3~16チャンネルがMIDI送信されます。

- ピアノプレーヤ用ソング
- MUMAで購入した曲
- プロテクトがかかっていない外部ソング

この楽器で読み込めるフォルダー階層は、2階層までです(外部ソングの場合)。ただし、この楽器では階層が表示されませんので、どの階層にある曲も001~999までの曲番号で表示されます。

メトロノームを鳴らしながら再生することもできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

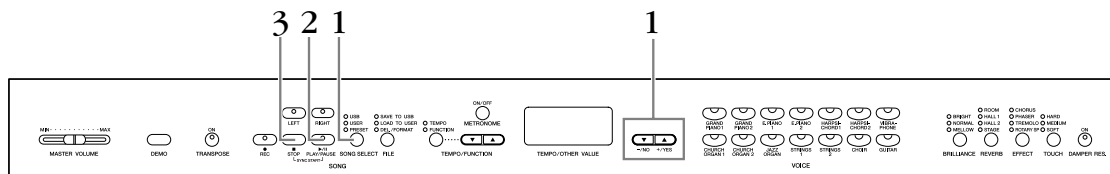
再生中に[REVERB (リバーブ)]の種類を切り替えた場合

再生中に[REVERB]の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

再生中に[EFFECT (エフェクト)]の種類を切り替えた場合

再生中に[EFFECT]の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音にはエフェクトがからなくなる場合があります。

ユーザーソングや楽器に取り込んだ外部ソングを再生する



1. 再生する曲を選ぶ

ソングセレクト [SONG SELECT]ボタンを押して「USER」のランプを点灯させます。
ユーザー そのあと[-/NO][+/YES]ボタンを押してユーザーソング(Uxx*)/外部ソング(XXX*)を選びます。

*ユーザーソングの曲名の最初に付いている「U」は「User」の「U」です。xxは、曲番号を示しています。

2. 再生スタート

ソング プレイ/ポーズ SONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと再生がスタートします。
 スタート後、画面に再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色をパネルで選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

音量の調節

マスターボリューム [MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節します。

テンポの調節

テンポ/ファンクション 再生スタート前でも再生中でも、[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押してテンポを変更することができます。[▼][▲]ボタンを同時に押しと、録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

3. 再生ストップ

曲を停止させるときは、SONG [STOP]ボタンを押します。
 曲を一時停止させるときは、曲の再生中にSONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

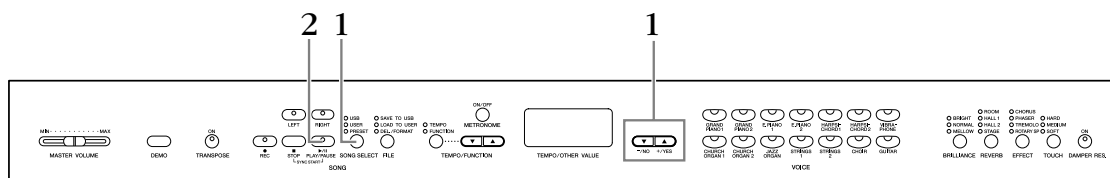
録音データがないときはSONG(ソング) [PLAY/PAUSE (プレイ/ポーズ)]ボタンを押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

外部ソングは、繰り返し再生できます。
 ALL: 外部ソングを順番に、ストップするまで連続再生するモードです。
 rnd: 外部ソングを順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。

外部ソングをこの楽器に取り込む方法は53ページ(コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する)を参照ください。

USB記憶装置に保存されている曲を再生する



1. 再生する曲を選ぶ

USB記憶装置が楽器に接続されていることを確認してから、ソングセレクト [SONG SELECT] ボタンを押して「USB」のランプを点灯させます。そのあと[-/NO][+/YES]ボタンを押して再生させたいソング番号(Sxx*)/外部ソング(xxx*)またはALL(連続再生番号順)、r n d (連続再生で番号は順不同)を選びます。

* SMFソングのファイル名の最初に付いている「S」は、SMFの「S」です。xxは、曲番号を示しています。

2. 再生スタート/ストップ

「ユーザーソングや楽器本体に取り込んだ外部ソングを再生する」(41ページ)の手順2~3と同様の操作です。

USB記憶装置に保存されているユーザーソングは、繰り返し再生できません。

ALL: ソングをソング番号順に再生します。ストップするまで再生は続きます。

r n d: ソングを順不同に再生します。ストップするまで再生は続きます。

再生に関する便利な機能

パートの再生オン/オフ

録音後は、録音したデータが入っているパートボタン(ライト [RIGHT][LEFT]ボタンの片方または両方)のランプが緑に点灯します。
ランプが点灯しているパートのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのパートのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。

パートの再生オン/オフの切り替えは再生中でも再生中でもできます。

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

ソング SONG [STOP]ボタンを押したまま ストップ [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、シンクロスタート待機状態になります。

→ SONG [PLAY/PAUSE]ボタンのランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

再生しながらご自身も弾く場合、再生とご自身の演奏の出だしを合わせたいときに便利です。

シンクロ=同時の、同時に起こる

左のペダルで再生/一時停止する

左のペダルで再生/一時停止することができます。

ファンクション(47ページ)で左のペダルの機能を再生/一時停止(パネルのSONG [PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生をスタートさせたいときに便利です。

各種の便利な設定をする [FUNCTION]

この楽器には、「音の高さを微調整」したり、「メトロノームの音量を設定」したりなど、いろいろ便利な設定をすることができます。それらをまとめて「ファンクション」と呼んでいます。

ファンクション=機能

まずは、以下のファンクション機能一覧をご覧ください。

ファンクションには大項目が7個(F1～F7)あります。

大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

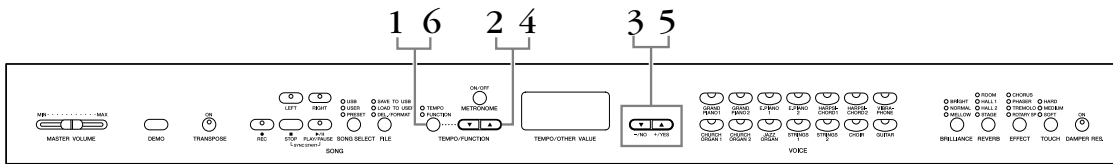
ファンクション一覧

大項目	小項目	初期設定値	表示	ページ	バックアップグループ	
音の高さの微調整	—	A3=440Hz	F1	45		
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	1(平均律)	F2.1	46	F7.3	
	基音の設定	C	F2.2	46		
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値	F3.1	46	F7.1	
	2音色の音の高さを微妙にずらす設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値	F3.2	46		
	第1音色のオクターブシフトの設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値	F3.3	46		
	第2音色のオクターブシフトの設定		F3.4	46		
	第1音色のエフェクトの深さの設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値	F3.5	46		
	第2音色のエフェクトの深さの設定		F3.6	46		
	初期設定に戻す操作	—	F3.7	46		
その他の諸設定	左のペダル機能の設定	1(ソフトペダル)	F4.1	47	F7.4	
	ソフトペダル効果の深さの設定	3	F4.2	47		
	曲再生チャンネル選択	ALL	F4.3	47		
メトロノーム音量の設定	—	10	F5	47	F7.1	
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	1	F6.1	48	F7.2	
	MIDI受信チャンネルの設定	ALL	F6.2	48		
	ローカルコントロールオン/オフの設定	オン	F6.3	48		
	プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	オン	F6.4	48		
	コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	オン	F6.5	49		
	セットアップデータのMIDI送信	—	F6.6	49		—
	イニシャルセットアップ送信	—	F6.7	49		—
バックアップオン/オフの設定	音色関連項目のバックアップ設定	オフ	F7.1	50	*	
	MIDI関連項目のバックアップ設定	オン	F7.2	50	*	
	音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定	オン	F7.3	50	*	
	その他の項目のバックアップ設定	オン	F7.4	50	*	
文字種の切り替え	—	Int (International)	F7.5	50	*	

「*」の項目は常にバックアップされます。

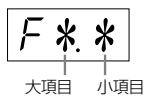
ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。
(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



1. ファンクションモードに入る

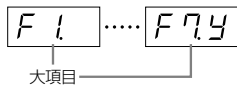
テンポ/ファンクション
[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。
「FUNCTION」のランプが点灯し、ファンクション画面が表示されます。



(*、*のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。)

2. 大項目を選ぶ

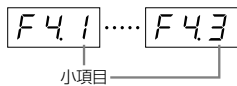
[TEMPO/FUNCTION ▲▼]ボタンで、ファンクションの大項目(F1~F7)を選びます。
大項目F1とF5は小項目がないので、手順5に進みます。
小項目がある場合、画面は「F * Y」になります。「Y」は小項目がある場合に表示します。



(小項目がある場合).....

3. [+ / YES]ボタンを押す

[+ / YES]ボタンで小項目を選択する操作に進みます。



4. 小項目を選ぶ

[TEMPO/FUNCTION ▲▼]ボタンで、ファンクションの小項目を選びます。
.....

5. 各項目の値を設定する

大項目または小項目を選んだあと、[- / NO] [+ / YES]ボタンで、各項目のオン/オフ、種類、数値の設定をします。

[- / NO] [+ / YES]を同時に押すと初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻る場合があります。

6. 操作が完了したら

[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押してファンクションから抜けます。
[TEMPO]のランプが点灯し、画面がテンポ表示に戻ります。

デモ曲/曲の再生モードのときと、曲の録音中、ファイル操作中ファンクションモードに入ることはできません。

手順2~5でファンクションの操作を中止したいときは
[FUNCTION]ボタンを押せばいつでもファンクションモードから抜けることができます。

各ファンクション項目の説明については、45ページをご覧ください。

項目を選んだあと、最初に[- / NO] [+ / YES]ボタンを押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

各ファンクション項目の説明

F1. 音の高さの微調整(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F1]** を選びます。
2. [-/NO] [+ /YES]ボタンで、A3の鍵盤の音の高さ^{ヘルツ}をHzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

表示は10の位と1の位と小数点第一位で表示します。

例 440.2Hzのときの表示は **[440.2]** になります。

設定範囲: 427.0~453.0 (Hz)

初期設定: 440.0 (Hz)

初期設定に戻す: [- /NO]と[+ /YES]ボタンを同時に押します。

Hz (ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まりません。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生したときの響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律 (Equal Temperament)

イコールテンペラメント

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure Temperament) (Major)

ピュア テンペラメント

メジャー

純正律(短調) (Pure Temperament) (minor)

マイナー

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ピタゴリアン テンペラメント

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)

ミントーン テンペラメント

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

ヴェルクマイスター

キルンベルガー音律 (Kirnberger)

キルンベルガー

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブスコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F2]** を選びます。
2. [+ /YES]ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
[TEMPO / FUNCTION ▼ ▲]ボタンで以下の小項目を選び、[- /NO] [+ /YES]ボタンで設定します。

小項目

F2.1 音律(調律法)の種類の設定

- 設定範囲: 1 平均律
 2 純正律(長調)
 3 純正律(短調)
 4 ピタゴラス音律
 5 中全音律
 6 ヴェルクマイスター音律
 7 キルンベルガー音律

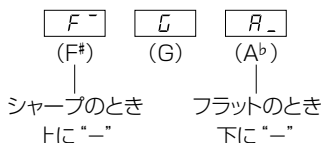
初期設定: 1 平均律

F2.2 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, E^b, E, F, F#, G, A^b, A, B^b, B
 初期設定: C

- 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。音色の組み合わせごとと個別に設定されます。

1. デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F3.4** を選びます。

2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
 [TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

デュアルモードでないときには

1. での表示が **F3.1** になり、[+ / YES] ボタンを押しても反応しません。この場合は音色を2つ選んで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F3.1 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20 (20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

初期設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F3.2 2音色の音の高さを微妙にずらす設定

設定範囲: -20~0~20 (+方向で第1音色の音の高さが高く、第2音色の音の高さが低くなる。-方向で第2音色の音の高さが高く、第1音色の音の高さが低くなる。)

ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音です。)

初期設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F3.3 第1音色のオクターブシフトの設定

F3.4 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1, 0, 1

初期設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F3.5 第1音色のエフェクトの深さの設定

F3.6 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

初期設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色を別々に設定します。

エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

- 「第1音色」「第2音色」については、25ページをご覧ください。

F3.7 初期設定に戻す操作

[+ / YES] ボタンを押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

ショートカット操作

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま[TEMPO / FUNCTION] ボタンを押すと直接ファンクションモードの **F3.8** に入ることができます。この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作([TEMPO / FUNCTION] ボタンを押す→TEMPOのランプ点灯)が必要です。

F4. その他の設定

左のペダルの機能を切り替えたり、ソフトペダル効果の深さを設定します。曲再生チャンネルの選択もできます。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F44]** を選びます。
2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
 [TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

小項目

[F41] 左のペダル機能の設定

設定範囲:

- 1 (ソフトペダル)

ペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

- 2 ソング [SONG] プレイ / ポーズ [PLAY / PAUSE]

曲の再生 / 一時停止をコントロールします。パネルの SONG [PLAY / PAUSE] と同じ機能になります。

初期設定: 1 (ソフトペダル)

[F42] ソフトペダル効果の深さ設定

設定範囲: 1~5

初期設定: 3

ソフトペダル効果の深さを設定します。

[F43] 曲再生チャンネル選択

オール
 設定範囲: ALL、1&2

初期設定: ALL

再生させるチャンネルを選択します。「ALL」では、チャンネル1~16すべてが再生されます。「1&2」では、チャンネル1と2だけが再生され、3~16チャンネルはMIDI送信されます。

NOTE SONG SELECTで[USER]または[PRESET]を選んでいるときは、チャンネル1&2を設定しても1~16のすべてのチャンネルが再生されます。

F5. メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

メトロノームの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F5]** を選びます。
2. [- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。
 設定範囲: 1~20
 初期設定: 10

ショートカット操作

METRONOME (メトロノーム) [ON / OFF] ボタンを押したまま [TEMPO / FUNCTION (テンポ / ファンクション)] ボタンを押すと直接ファンクションモードの **[F5]** に入ることができます。この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作 ([TEMPO / FUNCTION] ボタンを押す → TEMPO のランプ点灯) が必要です。

F6. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての簡単な紹介が「MIDIについて」
(51ページ)にあります。ご参照ください。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F64** を選びます。
2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、[TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

小項目

F61 MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでこの楽器からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16、OFF(送信しない)

初期設定: 1

デュアルのときの第2音色は

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)ただし、上記設定チャンネルをオフに設定した場合は送信されません。

曲データはMIDI送信されません。ただし、ピアノプレーヤ用ソング、MUMAで購入した曲、プロテクトがかかかっていない外部ソングで曲再生チャンネル選択(47ページ)を「1&2」に切り替えた場合、3~16チャンネルがMIDI送信されます。

F62 MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでこの楽器がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: ALL、^{オール}1&2、1~16

初期設定: ALL

ALLの場合は

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。

この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、この楽器で受信して再生させることができます。

「1&2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、この楽器で本体で再生させることができます。

この楽器でパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲モード中やファイル操作中に楽器は、MIDI受信を行ないません。

F63 ローカルコントロールオン/オフの設定

この楽器の演奏を内部の音源で鳴らすか、鳴らさないかを設定します。通常、楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても楽器本体からは音が出なくなりますが、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

F64 プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばこの楽器からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(楽器のパネルで音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジを受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」(web上のデータリスト)を参照してください。(アクセス方法は6ページを参照してください。)

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

F55 コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばこの楽器からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(この楽器でダンパーペダルなどを操作したときにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器からコントロールチェンジを受信すると、MIDIの演奏にコントロールチェンジの効果が付きます。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)。

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

この楽器が扱えるコントロールチェンジ情報については「MIDIデータフォーマット」(web上のデータリスト)を参照してください。(アクセス方法は6ページを参照してください。)

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

F56 セットアップデータのMIDI送信

楽器のセットアップデータを、シーケンサーなどに送信します。シーケンサーなどにこのデータを最初に録音することにより、再生時に、録音したときと同じパネル設定で再生することができます。

セットアップデータとは

現在の楽器のパネル設定状態一式のデータです。

操作

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどとMIDIケーブルで接続シーケンサー側の受信側の機器を受信できる状態にセットします。
3. ファンクションモードに入って **F56** を選びます。
4. [+ / YES] ボタンを押すと送信が実行されます。

送信が終わると、**End** が表示されます。

送信される「セットアップデータ」の内容

「MIDIデータフォーマット」(web上のデータリスト)を参照してください。パネルデータ詳細に掲載されている内容が送信されます。(データリストのアクセス方法は6ページを参照してください)

送信したデータの受信方法

データを送信した機器と楽器をMIDIケーブルで接続します。

1. データを送信した機器側で送信操作をします。
- 自動的に楽器がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F57 イニシャルセットアップ送信

MIDIケーブルで接続したシーケンサーなどにイニシャルセットアップデータ(楽器のパネル設定状態のデータ)を送信します。演奏データを録音する前にイニシャルセットアップ送信をすると、演奏データの頭にセットアップデータを記録しておくことができます。また、音源モジュールにセットアップデータを送信すれば、音源モジュールを楽器と同様の設定にすることができます。

操作

1. 送信するパネル設定を作ります。
 2. シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
 3. ファンクションモードに入って **F57** を選びます。
 4. [+ / YES] ボタンを押すと送信が実行されます。
- 送信が終わると、**End** が表示されます。

以下のデータをイニシャルセットアップ送信できます。

- 音色
- [REVERB]の種類^{リバーブ}
- [REVERB]の深さ
- [EFFECT]の種類^{エフェクト}
- [EFFECT]の深さ
- チューニング(音の高さの微調整)値(F1)
- 2音色の音の高さを微妙にずらす設定の値(F3.2)

F7. バックアップオン/オフの設定

バックアップとは

ご自身で設定した音色選択や、リバーブのタイプなどをはじめとする設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをオンにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。

バックアップをオフにしておくと、電源をオフにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには初期設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻ります。(初期設定一覧が58ページに掲載されています。)

ただし「本体内に録音された演奏データ」、「文字種の切り替え」、ここでの「バックアップオン/オフの設定」自体は常にバックアップされます。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのオン/オフを設定します。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F74]** を選びます。
2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
 [TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

小項目

[F71] 音色関連項目のバックアップ設定

[F72] MIDI関連項目のバックアップ設定

[F73] 音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

[F74] その他の項目のバックアップ設定

設定範囲: オン/オフ

初期設定: 音色関連項目のバックアップ設定……オフ
 MIDI関連項目のバックアップ設定～その他の項目のバックアップ設定……オン

・各小項目の内容

[F71] 音色関連項目のバックアップ設定

- 音色選択
- デュアルモードのオン/オフと音色
- デュアルの諸設定 (**[F3*]** の設定内容) (音色の組み合わせごと)
- リバーブの種類と深さ (音色ごと)
- エフェクトの種類と深さ (音色ごと)
- タッチの設定 (FIXED時の音量も含む)
フィックス
- メトロノームの拍子と音量 (音量は、**[F5]** の設定内容)

[F72] MIDI関連項目のバックアップ設定

MIDI機能の諸設定 (**[F5*]** の設定内容)

(**[F56]**、**[F57]** を除く)

[F73] 音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

- トランスポーズの設定
- 音の高さの微調整 (**[F1]** の設定)
- 音律(調律法)の種類と基音の設定 (**[F2*]** の設定内容)

[F74] その他の項目のバックアップ設定

- その他の諸設定 **[F4*]**
- プリリアンスの設定
- DAMPER RES. のオン/オフと深さ

F7.5 文字種の切り替え

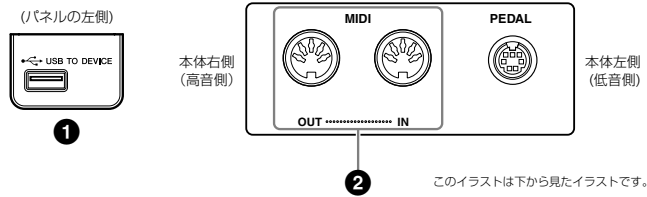
この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名の文字種に問題があることがあります。ここで文字種を切り替えてみてください。

設定範囲: Int (International) / JA (Japanese)

初期設定: Int

他の機器と接続する

端子について



① ^{トウ デバイス} USB [TO DEVICE]端子

USB記憶装置を接続する端子です。

詳しくは38ページの「USB機器の取り扱いについて」をご覧ください。

② ^{イン アウト} MIDI [IN][OUT]端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。MIDI機能を使えば、他のMIDI機器との演奏情報のやりとりや、コンピューターからのソングデータの読み込み、コンピューターへのユーザーソングデータの送信などができます。

MIDI [IN]MIDIデータを受信する端子です。

MIDI [OUT].....MIDIデータを送信する端子です。

詳しくは52ページの「コンピューターと接続する」をご覧ください。

MIDIについて

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、電子ピアノから外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターから電子ピアノをコントロールしたりすることができます。

MIDIでは、演奏データやコントロールデータを数値データとして送受信します。

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることとなります。共通に扱えるデータや命令は、web上のデータリスト「MIDIインプレメンテーションチャート」を参照してください。(アクセス方法は6ページを参照してください。)

コンピューターと接続する

MIDI端子とコンピューターを接続して、コンピューターとデータをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。コンピューターとデータをやりとりするには、USB-MIDIインターフェイス機器のドライバーとミュージックソフトダウンローダーを、コンピューターにインストールしてください。

この楽器とコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

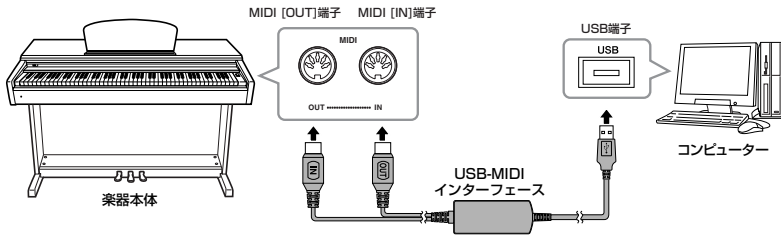
- コンピューターのUSB端子と楽器のMIDI端子を、USB-MIDIインターフェイス機器を使って接続する方法
- コンピューターと楽器のMIDI端子を、MIDIインターフェイス機器を使って接続する方法

詳しくは以下をご覧ください。

注記 コンピューターと接続する場合は、最初にこの楽器の電源を切り、コンピューター上のすべてのアプリケーションソフトを終了した状態でケーブルを接続し、そのあと楽器の電源を入れてください。

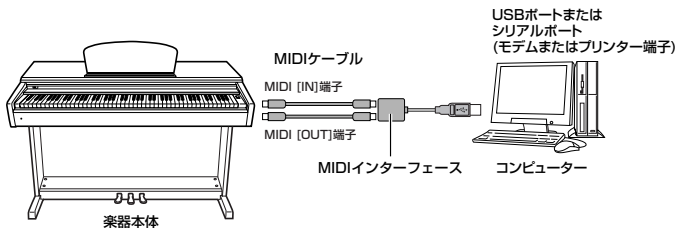
コンピューターのUSB端子と楽器のMIDI端子を、USB-MIDIインターフェイス機器を使って接続する方法

コンピューターのUSB端子と、USB-MIDIインターフェイス機器をUSBケーブルで接続します。USB-MIDIインターフェイス機器に付属のドライバーをインストールします。USB-MIDIインターフェイス機器と楽器を接続します。詳しくは、USB-MIDIインターフェイス機器に付属の取扱説明書をご覧ください。



コンピューターと楽器のMIDI端子を、MIDIインターフェイス機器を使って接続する方法

MIDIインターフェイス機器を通じて楽器のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブル(別売)を使います。



別売USB-MIDIインターフェイス機器
UX16

ドライバーとは
ドライバーとは、コンピューターとそこに接続された機器との、データをやりとりするための仕組みを整えるソフトウェアのことです。

USB-MIDIインターフェイス機器のドライバーやソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」は、下記URLからダウンロードできます。
<http://www.yamaha.co.jp/download/msd>

使用するパソコンやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する

この楽器にはデモソングやピアノ50曲を内蔵していますが、そのほかにコンピューターからソングデータを読み込んで演奏することもできます。

この操作をするためには、下記のURLから「ミュージックソフトダウンローダー」をダウンロードして、お使いください。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd>

ミュージックソフトダウンローダーの操作について詳しくは、ミュージックソフトダウンローダーのヘルプをご覧ください。

なお、コンピューターから楽器に曲が保存できない場合は、ファイル名を英数字のみに変更して再度試してください。

ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステムは、上記URLでご確認ください。

ミュージックソフトダウンローダーのソフトウェアは、無料でダウンロードできます。

コンピューターからソングデータを楽器に読み込む

主に、ピアノだけのソングを読み込んだり、この楽器で録音してコンピューターに保存した曲をもう一度楽器に読み込むのに使用します。

SMF Format 0のMIDIデータはこの楽器に読み込めますが、そのデータがこの楽器にない機能を使用している場合は、データどおりに再生できません。

コンピューターからソングデータを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

● コンピューターから楽器に読み込める内容

- ・ソング : 外部ソング、ユーザーソング(楽器から読み込んだソング)
- ・データ量 : 合計で939KB(キロバイト)
- ・データフォーマット : SMF Format 0&1
- ・バックアップデータ : 楽器から読み込んだデータ
ファイル名
10YDP.BUP

SMF(スタンダードMIDIファイル)

代表的なシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)の一つです。「MIDIファイル」と呼ばれることもあります。ファイルの拡張子は.MIDです。

SMFフォーマットでセーブされた曲(ソング)データは、SMF対応の音楽ソフトやシーケンサーで手軽に再生できます。

この楽器もSMFに対応しています。

注記

データ送信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししないでください。送信中のデータが保存されないだけでなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入/切時にすべて消える可能性があります。

楽器からソングデータをコンピューターに送信する

ミュージックソフトダウンローダーを使って、楽器内のユーザーソングをコンピューターに送信できます。

ユーザーファイルをコンピューターに送信する方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

● 楽器からコンピューターへ送信できる内容

- ・ユーザーソング、外部ソング(コンピューターから読み込んだソング)
- ・バックアップデータ(パネル設定)

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

データのバックアップと初期設定に戻す方法

データのバックアップ

本体に保存したデータの万一の事故に備えて、大切なデータはコンピューターにバックアップとして保存することをおすすめします。

バックアップ対象となるデータ

●パネル設定

パネル設定とは、50ページの「バックアップオン/オフの設定」でバックアップをオンにしたときバックアップされる項目のことです。パネル設定をまとめてひとつのバックアップファイルとして保存します。

●ユーザーソング

●コンピューターから楽器に保存した曲(外部ソング)

ソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使用して、コンピューターから楽器に保存した曲です。

1. USB-MIDIインターフェース機器のドライバーとミュージックソフトダウンローダーをコンピューターにインストールします。

そのあと、楽器とコンピューターを接続します。

楽器とコンピューターとの接続については、52ページをご覧ください。

2. ミュージックソフトダウンローダーを使って、下記の操作をします。

・パネル設定をコンピューターに移動する

「電子楽器」→「System Drive」の中にある「10YDP.BUP」とユーザーソング(U01~U03.mid)をコンピューターに移動します。

・ユーザーソングと、コンピューターから楽器に保存した曲(外部ソング)をもう一度コンピューターに移動する

「電子楽器」→「Flash Memory」の中にある曲データをコンピューターに移動します。

ミュージックソフトダウンローダーの操作について詳しくは、ミュージックソフトダウンローダーのヘルプをご参照ください。

楽器のパネル設定を元に戻すときは、コンピューターに移動したファイルを「電子楽器」の中のそれぞれのフォルダーに戻します。

左記のバックアップファイルは、USB記憶装置には保存できません

USB-MIDIインターフェース機器のドライバーやソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」は、下記URLからダウンロードできます。
<http://www.yamaha.co.jp/download/msd>

楽器とコンピューターを接続してミュージックソフトダウンローダーを使っているときは、楽器の画面に「con (computer connection)」が表示されます。この表示が出ている間は、楽器の操作ができません。

楽器が以下の状態のときは、ミュージックソフトダウンローダーとの接続ができません。

- ・デモモードに入っているとき
- ・曲再生中
- ・録音中
- ・ファイル操作中

初期設定(工場出荷時の設定)に戻すには

注記 この操作をすると本体に記憶されているデータが消去されます。大切なデータはコンピューター側に保存してください。

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源をオンにします。この操作でいつでも初期設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻すことができます。(ここでの「バックアップオン/オフの設定」も含めたすべての項目が初期設定に戻ります。また、本体内に録音された演奏データも消えます。)(初期設定一覧が58ページに掲載されています。)

注記 「CLR」が表示されているときに電源を切らないでください。「CLR」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(41ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

メッセージ一覧

表示	表示内容
CLr	楽器を初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻しています。 注記 「CLr」が表示されているときに電源を切らないでください。「CLr」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(41ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。
con	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに表示されます。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
E01	USB記憶装置が壊れているので、記憶装置にアクセスできません。またはUSB記憶装置が楽器に認識されていません。
E02	曲データが壊れています。
E04	ファイルが大きすぎてロードできません。
End	処理が終わりました。
Err	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに、MIDI/USBケーブルを抜くと表示されます。
FCL	処理中に電源を切ったので、楽器本体のメモリーが初期化されました。ご自身で録音した曲、コンピューターから取り込んだ曲やパネルの設定などが消去されています。 注記 「FCL」が表示されているときに電源を切らないでください。
For	USB記憶装置のフォーマットモードに入っています。
FUL	(曲の録音中に)楽器本体のメモリー容量がいっぱいになりました。
	USB記憶装置のメモリー容量がいっぱいで、曲を保存できません。
	ファイルやフォルダーの数が制限を超えました。
Lod	プロテクトがかかった曲をロードしています。
n y	操作を実行しますか？
n-y	データの上書きや削除、またはUSB記憶装置のフォーマットを実行しますか？
Pro	USB記憶装置にプロテクトがかかっています。
UnF	フォーマットされていないUSB記憶装置が接続されています。

「Err」が表示されている状態から元の状態に戻すには[-/NO]ボタン、または[+/YES]ボタンを押します。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
この楽器の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(13ページ)。
この楽器から雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	楽器の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME]スライダーが下がっています。	[MASTER VOLUME]スライダーを上げてください(14ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜くか、[SPEAKER]スイッチをオンにしてください(14ページ)。
	[SPEAKER]スイッチがオフになっています。	[SPEAKER]スイッチをNORMALまたはオンにしてください(14ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(48ページ)。
ヘッドフォンを差してもスピーカーからの音が切れない。	[SPEAKER]スイッチがオンになっています。	[SPEAKER]スイッチをNORMALにしてください(14ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。	本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(61ページ)。
ペダルの効きが悪い。	ダンパーペダルを踏んだまま、電源を入れたためです。	故障ではありません。ダンパーペダルを踏みなおすと機能が回復します。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。
曲データが入ったUSB記憶装置を接続しても、[SONG SELECT]ボタンで「USB」を選ぶことができない。	USB記憶装置が楽器に認識されていません。	1. USB記憶装置が壊れていないか確認します。USB記憶装置を楽器本体に接続したときに[FILE]ボタンの「LOAD TO USER」のランプが点滅するか確認します。ランプが点滅しなければ、その記憶装置は壊れている可能性があります。 2. USB記憶装置が動作確認済みであることを確認します(38ページ)。 3. 再度[SONG SELECT]ボタンで「USB」を選びます。USB記憶装置が楽器に認識されるまでに、時間がかかることがあります。もう一度、[SONG SELECT]ボタンで「USB」を選んでみてください。
USB記憶装置がフリーズする、または動作しない。	動作確認されていないUSB記憶装置です。	動作確認済みのUSB記憶装置をご使用ください(38ページ)。
	USB記憶装置の動作が不安定になっています。	USB記憶装置をいったん外して電源を入れ直し、それからUSB記憶装置を接続し直してください。
USB記憶装置を楽器に差し込んだとき[FILE]ボタンの3つのランプ「SAVE TO USB」、「LOAD TO USER」、「DEL./FORMAT」が点滅する。	そのUSB記憶装置はこの楽器では使用できません。	1. USB記憶装置を抜いて楽器の電源を一度切ってください。 2. 動作確認済みのUSB記憶装置をご使用ください(38ページ)。
USB記憶装置を使用中[FILE]ボタンの3つのランプ「SAVE TO USB」、「LOAD TO USER」、「DEL./FORMAT」が約5秒間点滅した。	通信エラーです。	USB記憶装置を挿し直してもう一度操作してください。
USB記憶装置の操作中にディスプレイが何も表示しなくなった。	通信エラーです。	[-/NO]または[+/YES]ボタンを押してもう一度操作してみてください。
コンピューターやUSB記憶装置から、曲のロードができない。	ファイル名に日本語が使われています。	ファンクション[F7.5]で、文字種をJAIに切り替えてください。

音色一覧

	ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング *1	キーオフ サンプリング *2	音色のご紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ 1)	○	○	○	—	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。3段階のダイナミックサンプリング(*1)で音造りをしており、クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ 2)	○	○	—	—	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ 1)	—	○	○	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ 2)	—	○	○	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD 1 (ハープシコード 1)	○	—	—	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
HARPSICHORD 2 (ハープシコード 2)	○	—	—	○	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	○	—	比較的柔らかかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
CHURCH ORGAN 1 (チャーチオルガン 1)	○	—	—	—	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
CHURCH ORGAN 2 (チャーチオルガン 2)	○	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。
STRINGS 1 (ストリングス 1)	○	○	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
STRINGS 2 (ストリングス 2)	○	○	—	—	立ち上がりの緩やかな広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
CHOIR (クワイア)	—	○	—	—	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが見られます。
GUITAR (ギター)	○	○	○	—	暖かみのあるナチュラルなナイロンギターの音です。静かな曲で雰囲気を楽しんでください。

*1: ダイナミックサンプリングとは

鍵盤を強く弾くに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。

*2: キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

デモ曲一覧

音色	曲名	作曲者
GRAND PIANO1 (グランドピアノ 1)	愛の挨拶 op.12	E. エルガー
HARPSICHORD1 (ハープシコード 1)	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ
HARPSICHORD2 (ハープシコード 2)	フランス組曲 第5番 ジーグ BWV.816	
CHURCH ORGAN 1 (チャーチオルガン 1)	オルガン小曲集「神のひとり子なる主キリスト」BWV.601	
CHURCH ORGAN2 (チャーチオルガン 2)	トリオ ソナタ 第6番 BWV.530	

上記デモ曲は、原曲から編曲/抜粋されています。

上記以外の曲は、オリジナル曲です。(©2010 Yamaha Corporation)

初期設定一覧

初期設定(=初めて電源を入れたときの設定)を一覧にしました。

項目	初期設定値	バックアップグループ
音色選択	GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	F7.1
デュアル機能	オフ	F7.1
プリリアンスの種類	NORMAL (ノーマル)	F7.4
リバーブの種類	音色ごとに最適な設定値	F7.1
リバーブの深さ	音色ごとに最適な設定値	
エフェクトの種類	音色ごとに最適な設定値	
エフェクトの深さ	音色ごとに最適な設定値	
タッチの種類	MEDIUM (ミディアム)	
タッチがFIXED (フィクスト)のときの音量	64	
DAMPER RES.	オン	-
DAMPER RES. の深さ	5	-
メトロノーム	オフ	-
メトロノームの拍子	0 (無拍子)	-
テンポ	120	-
トランスポーズ	0	F7.3

「-」の項目はバックアップはありません。

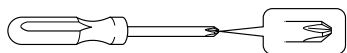
バックアップグループについては、50ページをご覧ください。
ファンクションの初期設定については、「ファンクション一覧」(43ページ)をご覧ください。

組み立て方

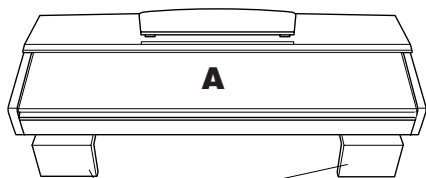
⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

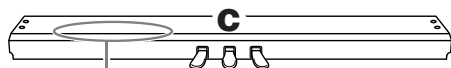
ネジのサイズにあったプラス(+)のドライバーを用意してください。



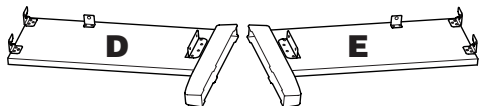
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面のコネクタを避けて配置する。



裏側にベダルコードが束ねてあります。



— ネジセット —

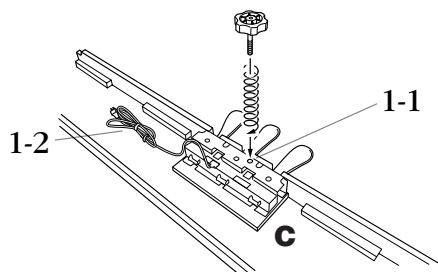
- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 長いネジ(6×20mm) : 4本 | 先のとがったネジ(4×20mm) : 4本 |
| 短いネジ(6×16mm) : 4本 | コードホルダー : 2個 |
| 細いネジ(4×12mm) : 2本 | |

— ヘッドフォンハンガーセット —

- | | |
|-------------------|------------|
| 細いネジ(4×10mm) : 2本 | ヘッドフォンハンガー |
| 電源コード | アジャスター |

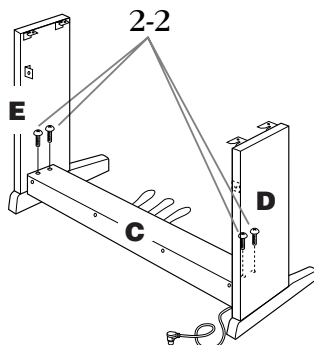
1. Cにアジャスターを取り付ける

- 1-1 図のねじ穴にアジャスターの先端を合わせ、アジャスターが止まるまで回す。
アジャスターは手順 8 で再調節します。
- 1-2 ペダルコードをほどく。
外したビニールひもは、手順 7 で使用します。



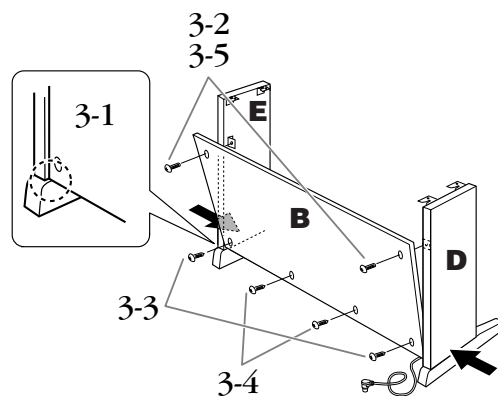
2. CにDとEを仮留めする

- 2-1 Cの両端にDとEを合わせて置く。
- 2-2 長いネジ(6×20mm)で仮留めする。



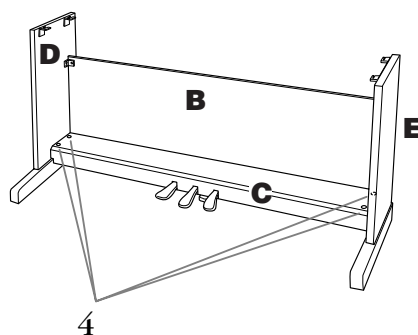
3. Bを固定する

- 3-1 Bの下側を脚のふちにのせてから、上側をはめる。
- 3-2 Bの上側を、細いネジ(4×12mm)で仮留めする。
- 3-3 DとEの下部を外側から内側方向へ押しながら、先のとがったネジ(4×20mm)で下側左右を固定する。
- 3-4 下側の残り2カ所を、先のとがったネジ(4×20mm)で固定する。
- 3-5 DとEを外側から内側方向に押しながら、仮留めしたネジ(手順 3-2)をきつく締め直す。



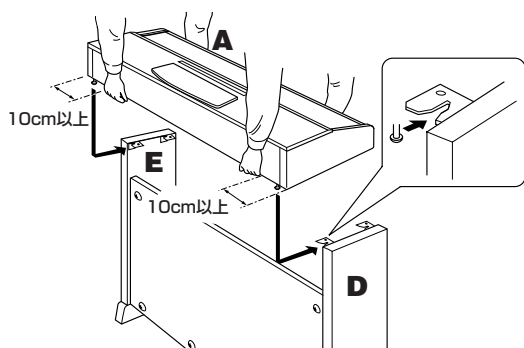
4. Cを固定する

CとD/Eを仮留めしたネジ(手順 2-2)をきつく締め直す。



5. Aをのせる

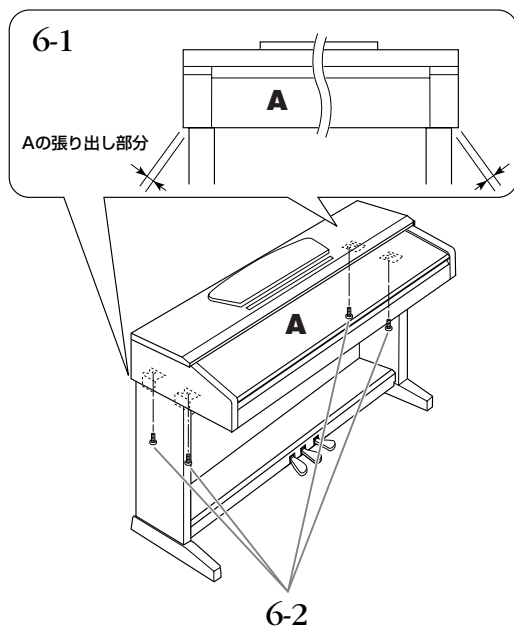
A底面の端から10cm以上内側を持ってのせる。



6. Aを固定する

6-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整する。

6-2 前面から、短いネジ(6×16mm)で固定する。



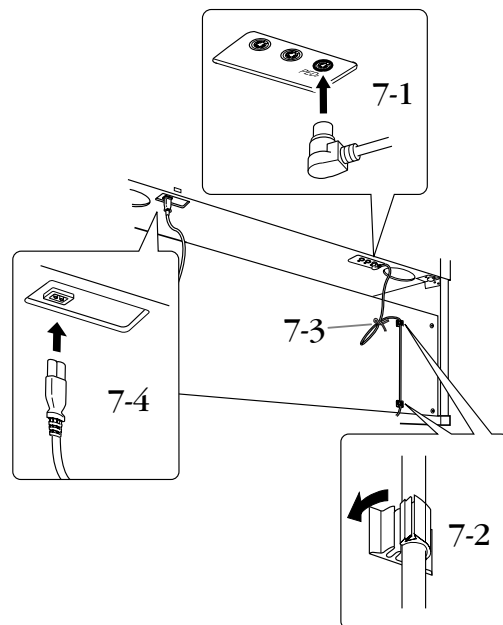
7. ペダルコードと電源コードを接続する

7-1 ペダルコードのプラグを背面から、ペダル端子に差し込む。

7-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。

7-3 ペダルコードを、ビニールひもで束ねる。

7-4 電源コードのプラグを差し込む。



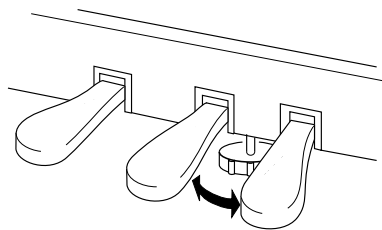
■ ペダルケーブルを接続するときは

プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが効かないことがあります。



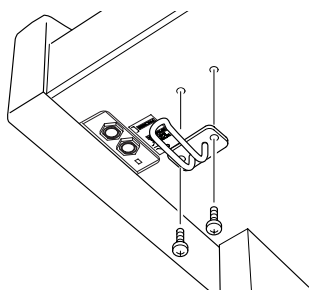
8. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



9. ヘッドフォンハンガーを固定する

付属のネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付ける。

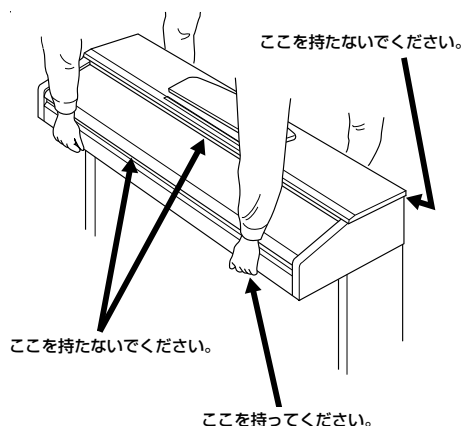


組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
→この楽器を移動してください。
- この楽器がぐらぐらしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

⚠ 注意

- 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。
天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



仕様

製品名		YDP-181	
サイズ/ 重量	幅	1364 mm	
	高さ []内は譜面立てを立てた場合	853 mm [1002mm]	
	奥行き	515 mm	
	質量	50 kg	
操作子	鍵盤数	88	
	鍵盤種	グレードハンマー (GH)鍵盤	
	タッチ感度	○	
	ペダル数	3	
	ハーフペダル	○	
	ペダル機能	ダンパー (ハーフペダル機能付き)、ソステヌート、ソフト	
	ディスプレイ	7-Segment LED	
	パネル言語	英語	
本体	鍵盤蓋	スライド式キーカバー	
	譜面立て	○	
音源/音色	音源	ピュアCF音源	
	発音数	128	
	音色数	14	
効果	リバーブ	4タイプ	
	デュアル	○	
録音/再生	プリセットソング	音色デモ曲 14曲、ピアノ曲 50曲	
	録音	曲数	3
		トラック数	2
		容量	フラッシュメモリー (内蔵) ユーザーソング: 100KB × 3、外部ソング: 639KB
	再生データフォーマット	SMF (Format 0 & 1)、ESEQ (ピアノプレーヤ用ソングのみ)	
録音データフォーマット	SMF (Format 0)		
機能	メトロノーム	○	
	テンポ	32~280	
	トランスポーズ	-12~-0~+12	
	チューニング	○	
	スケール	7タイプ	
メモリー	内部メモリー	ユーザーソング 300KB (100KB×3曲分)/外部ソング639KB	
	USB記憶装置	別売USB記憶装置をUSB [TO DEVICE]端子に接続可	
接続端子	ヘッドフォン	2	
	MIDI	[IN][OUT]	
	USB [TO DEVICE]	1	
アンプ/ スピーカー	アンプ出力	20W × 2	
	スピーカー	16cm × 2	
電源	定格電源	AC100V 50/60Hz	
	消費電力	40W	
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、ヘッドフォン、イス、電源コード ヤマハオンラインメンバー製品ユーザー登録のご案内		
別売品	ヘッドフォン	HPE-150	
	USB-MIDIインターフェース	UX16	

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

A		ア	
ABリピート	18	安全上のご注意	2
B		イ	
[BRILLIANCE](ブリリアンス)ボタン	21	移調	24
D		ウ	
[DAMPER RES.](ダンパーレゾナンス)ボタン	22	運搬	7
[DEMO](デモ)ボタン	15	エ	
E		エフェクト	22
[EFFECT](エフェクト)ボタン	22	オ	
F		音に変化を付ける	21
[FILE](ファイル)ボタン	34	音色一覧	57
FUNCTION (ファンクション)	43	音色ボタン	19
L		音色を重ねる	25
LEFT (レフト)	30	音律	45
[LEFT](レフト)ボタン	42	音量(ボリューム)を調節する	14
LOAD TO USER (ロード トゥー ユーザー)	35	カ	
M		外部ソング	41
[MASTER VOLUME](マスターボリューム)スライダー	14	キ	
METRONOME [ON/OFF](メトロノームオン/オフ)ボタン	26	キーカバー	12
MIDI	51	キー(調)を変える	24
MIDI [IN][OUT](MIDI イン/アウト)端子	51	曲再生チャンネル選択	47
MIDIインプリメンテーションチャート	6	曲を再生する	40
MIDI機能の諸設定(ファンクション)	48	ク	
MIDIデータフォーマット	6	組み立て方	59
P		繰り返し再生	18
[PHONES](フォーンズ)端子	14	コ	
[PLAY/PAUSE](プレイ/ポーズ)ボタン	42, 16, 41	工場出荷時の設定	54
R		困ったときは	56
[REC](レコード)ボタン	27	コンピューターと接続する	52
[REVERB](リバーブ)ボタン	21	サ	
RIGHT (ライト)	30	削除(USB記憶装置に入っている曲)	36
[RIGHT](ライト)ボタン	42	削除(ユーザーソング)	31
S		シ	
SAVE TO USB (セーブ トゥー USB)	34	仕様	63
SMF (Standard MIDI File)	33	初期設定	54
[SONG SELECT](ソングセレクト)ボタン	16, 41	初期設定一覧	58
[SPEAKER]スイッチ	14	シンクロスタート	17, 42
[STOP](ストップ)ボタン	16, 41	ス	
T		スピーカー	14
[TEMPO/FUNCTION](テンポ/ファンクション)ボタン	26	スピーカーのオン/オフを切り替える	14
[TOUCH](タッチ)ボタン	23	ソ	
[TRANSPOSE](トランスポーズ)ボタン	24	ソステヌートペダル	20
U		ソフトペダル	20
USB [TO DEVICE](USB トゥー デバイス) 端子	51	ソフトペダル効果の深さ設定	47
USB記憶装置の取り扱い	38	ソングデータを送受信する	53
V		タ	
VOICE (ボイス)	19	タッチ感度	23
		端子について	51, 54
		ダンパーペダル	20
		ダンパーレゾナンス	22
		チ	
		チューニング	45
		調律について	7

テ		リ	
デモ曲	15	リバーブ	21
デモ曲一覧	57	レ	
デュアル	25	連続再生	16
デュアルの諸設定	46	ロ	
電源を入れる	13	録音	27
テンポ	26	録音(記録)されるデータの種類	31
ト		録音し直す	29
トランスポーズ	24	録音(パートごとに録音する)	30
ハ			
パートの再生オン/オフ	42		
バックアップ	54		
バックアップオン/オフの設定	50		
ヒ			
ピアノ50曲(プリセットソング)	16		
左のペダル機能の設定	47		
拍子	26		
フ			
ファイル操作	33		
ファクトリーセット	54		
ファンクション一覧	43		
フォーマット(USB記憶装置)	37		
付属品	7		
譜面立て	12		
プリリアンス	21		
プレイ/ポーズ(ペダル)	42		
ヘ			
ペダル	20		
ヘッドフォン	14		
ヘッドフォンハンガー	14		
ホ			
ボイス	19		
保存	33, 34		
ミ			
ミュージックソフトダウンローダー	53		
メ			
メッセージ一覧	55		
メトロノーム	26		
メトロノーム音量の設定	47		
モ			
文字種の切り替え	50		
ユ			
ユーザーソング	27		
ヨ			
読み込み	33, 35		

メモ

付録

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間或使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※ 市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、
土曜日 9:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越)
03-5762-2125

西日本 (沖縄/九州/中国/四国/近畿/東海/北陸)
06-6465-0374

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

名古屋サービスセンター

〒454-0832

名古屋市中川区清船町4丁目1-11 ピアノ運送株式会社 名古屋営業所1F

FAX 052-363-5903

大阪サービスセンター

〒554-0024

大阪市比花区島屋6-2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F

FAX 06-6465-0374

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX 092-472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

 **0570-006-808**

ナビダイヤル[®] ※ 一般電話、公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

- **ピアノ/キーボードのホームページ**
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>
 - **ヤマハマニュアルライブラリー**
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>
 - **あなたの音楽生活をフルサポート
ミュージックイークラブ**
<http://www.music-eclub.com/>
-

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

※ 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。